

(12) 特許協力条約に基づいて公開された国際出願

(19) 世界知的所有権機関
国際事務局

(43) 国際公開日
2013 年 9 月 12 日(12.09.2013)



(10) 国際公開番号
WO 2013/132782 A1

- (51) 国際特許分類:
B65D 83/08 (2006.01) **A47K 7/00** (2006.01)
- (21) 国際出願番号: PCT/JP2013/001115
- (22) 国際出願日: 2013 年 2 月 26 日(26.02.2013)
- (25) 国際出願の言語: 日本語
- (26) 国際公開の言語: 日本語
- (30) 優先権データ:
特願 2012-047807 2012 年 3 月 5 日(05.03.2012) JP
- (72) 発明者: および
- (71) 出願人: 山田 菊夫(YAMADA, Kikuo) [JP/JP]; 〒1410022 東京都品川区東五反田 1-2-15 ティアラ島津山 305 号 Tokyo (JP).
- (74) 代理人: 細井 勇(HOSOI, Isamu); 〒1040061 東京都中央区銀座 8-19-3 銀座竹葉亭ビル 8 階 Tokyo (JP).
- (81) 指定国 (表示のない限り、全ての種類の国内保護が可能): AE, AG, AL, AM, AO, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BH, BN, BR, BW, BY, BZ, CA, CH, CL, CN,

CO, CR, CU, CZ, DE, DK, DM, DO, DZ, EC, EE, EG, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, GT, HN, HR, HU, ID, IL, IN, IS, JP, KE, KG, KM, KN, KP, KR, KZ, LA, LC, LK, LR, LS, LT, LU, LY, MA, MD, ME, MG, MK, MN, MW, MX, MY, MZ, NA, NG, NI, NO, NZ, OM, PA, PE, PG, PH, PL, PT, QA, RO, RS, RU, RW, SC, SD, SE, SG, SK, SL, SM, ST, SV, SY, TH, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA, UG, US, UZ, VC, VN, ZA, ZM, ZW.

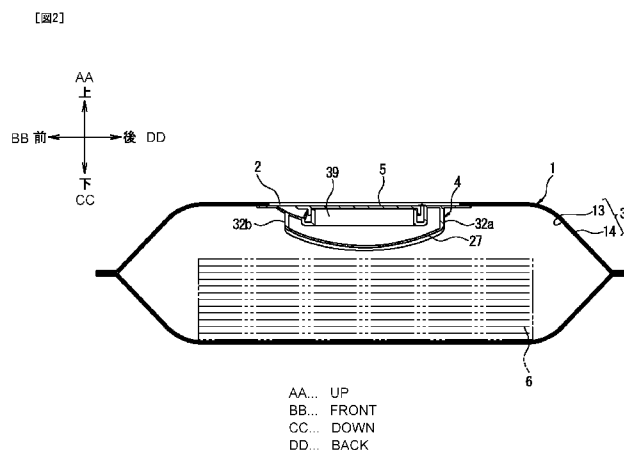
- (84) 指定国 (表示のない限り、全ての種類の広域保護が可能): ARIPO (BW, GH, GM, KE, LR, LS, MW, MZ, NA, RW, SD, SL, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), ユーロパ (AM, AZ, BY, KG, KZ, RU, TJ, TM), ヨーロッパ (AL, AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, FR, GB, GR, HR, HU, IE, IS, IT, LT, LU, LV, MC, MK, MT, NL, NO, PL, PT, RO, RS, SE, SI, SK, SM, TR), OAPI (BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ, GW, ML, MR, NE, SN, TD, TG).

添付公開書類:

- 国際調査報告 (条約第 21 条(3))

(54) Title: WET TISSUE PACKAGING UNIT

(54) 発明の名称: ウェットティッシュ包装体



(57) Abstract: This invention provides a wet tissue packaging unit capable of reliably sealing a storage container and maintaining a continuous body of wet tissues in a moist state. A wet tissue packaging unit provided with: a storage container, which is capable of storing a continuous body of wet tissues in which separating parts are formed at each of prescribed intervals, and in which is formed an opening for pulling out, towards the outside, a wet tissue that has separated from the continuous body of wet tissues at the separating part; a take-out port formation member having a take-out port formation part, which is attached to the opening of the storage container and in which is formed a take-out port for imparting resistance when the continuous body of wet tissues passes therethrough, and a storage space capable of storing the leading end of the continuous body of wet tissues that passed through the take-out port; and a cover section that freely opens and closes from the outside of the storage space, wherein there is provided a linking part for linking the storage space of the take-out port formation member and the space inside the storage container in an area other than the take-out port.

(57) 要約:

[続葉有]

WO 2013/132782 A1



収納容器を確実に密閉し、ウェットティッシュ連続体の湿潤状態を維持することが可能なウェットティッシュ包装体を提供する。所定間隔ごとに分離部が形成されたウェットティッシュ連続体を収納可能であって、前記分離部で前記ウェットティッシュ連続体と分離されたウェットティッシュを外方向へ引き出すための開口部が形成された収納容器と、前記収納容器の前記開口部に取り付けられていて、前記ウェットティッシュ連続体が通過する際に抵抗を付与するための取出孔が形成された取出孔形成部と、前記取出孔を通過した前記ウェットティッシュ連続体の先端を収納可能な収納空間とを有する取出孔形成部材と、前記収納空間から外方から閉塞及び開放自在な蓋体とが設けられたウェットティッシュ包装体において、前記取出孔形成部材の前記収納空間と前記収納容器内の空間との間を前記取出孔以外の領域において連通させる連通部、が設けられる。

明 細 書

発明の名称： ウェットティッシュ包装体

技術分野

[0001] 本発明は、複数のウェットティッシュからなるウェットティッシュ連続体を収納容器の中に収納包装したウェットティッシュ包装体に関する。

背景技術

[0002] 従来から、お手拭用、又は乳幼児、病人若しくは老人のお尻拭き用などに使用するウェットティッシュが広く知られている。ウェットティッシュは、基布に薬液等を含浸させたものである。ウェットティッシュは、基布が薬液等で濡れた状態を維持することができるように、密封された収納容器の中に収納されており、必要に応じて収納容器から取り出すことができるように構成されている。

[0003] 収納容器は、円筒形状をしたボトルタイプのものが従来から広く使用されている。ボトルタイプの収納容器には、ロール状に巻かれたウェットティッシュ連続体が収納されていることが多い。このウェットティッシュ連続体には、所定間隔でミシン目線の切れ目等による分断部（即ち、分離部）が形成されており、分離部でウェットティッシュ連続体の一部を切断する等によりウェットティッシュ連続体を分離部で分離すると、シート状のウェットティッシュとなる。

[0004] また、近年は、ボトルタイプのウェットティッシュ包装体に代わり、収納容器が袋状に形成された袋タイプのウェットティッシュ包装体を用いることも多くなっている。袋タイプのウェットティッシュ包装体は、折り重ねたウェットティッシュ連続体を袋体の中に収納しており、袋体に開口形成された開口部から、ウェットティッシュ連続体を構成するウェットティッシュを外部へ取り出せるように構成されている。袋体の開口部は、ウェットティッシュ連続体に形成された分離部において、該ウェットティッシュ連続体からウェットティッシュを分断することができるように構成されている。また、袋

体には、通常は開口部を開閉するための蓋体が設けられている。蓋体としては、例えば袋体と同様のフィルム材質を用いたフラップ状のものが多く用いられている（例えば、特許文献１，２）

先行技術文献

特許文献

[0005] 特許文献１：特開２００４－１９６３０３号公報

特許文献２：特開２０１０－１７３６４９号公報

発明の概要

発明が解決しようとする課題

[0006] このように形成された袋タイプのウェットティッシュ包装体は、使用者がウェットティッシュを取り出さない時は、蓋体が開口部を閉塞するよう袋体の表面付近に貼り付けられている。ウェットティッシュ包装体においては、この蓋体によって、袋体の内部が密閉状態にされ、袋体に収納されているウェットティッシュに含浸された薬液等が揮発するのを防止している。

[0007] また、蓋体の奥に位置には、ウェットティッシュ包装体が引き出される際に、そこを通過するウェットティッシュ連続体に摩擦抵抗を付与する取出孔が形成されている。そして、取出しにおいてウェットティッシュ連続体に一定以上の抵抗が作用すると、それにより引き出し端寄りの位置にある分離部でウェットティッシュ連続体が分離される。

[0008] しかしながら、袋タイプのウェットティッシュ包装体は、ウェットティッシュを消費していくと、袋体内におけるウェットティッシュ連続体の嵩が低くなり、ウェットティッシュ連続体が通過し易くなって分離部での分離のタイミングに遅れがでる。すると、分離されて残された側のウェットティッシュ連続体の先端部分が蓋体で密封されるべき開口部から余分に引き出されてはみ出して、ウェットティッシュ包装体を確実に密閉することができなくなり、ウェットティッシュの湿潤状態が維持できなくなるという問題があった。

[0009] 本発明は、上記した問題点に鑑みてなされたもので、収納容器をよく密閉することができて収納容器に収納されたウェットティッシュの湿潤状態を維持することができるウェットティッシュ包装体を提供することを目的とする。

課題を解決するための手段

[0010] 本発明は、

(1) 所定間隔ごとに分離部が形成されたウェットティッシュ連続体を収納可能であって、前記分離部で前記ウェットティッシュ連続体と分離されたウェットティッシュを外方向へ引き出すための開口部が形成された収納容器と、

前記収納容器の前記開口部に取り付けられていて、前記ウェットティッシュ連続体が通過する際に抵抗を付与するための取出孔が形成された取出孔形成部と、前記取出孔を通過した前記ウェットティッシュ連続体の先端を収納可能な収納空間とを有する取出孔形成部材と、

前記収納空間から外方から閉塞及び開放自在な蓋体とが設けられたウェットティッシュ包装体において、

前記取出孔形成部材の前記収納空間と前記収納容器内の空間との間を前記取出孔以外の領域において連通させる連通部、が設けられていることを特徴とするウェットティッシュ包装体、

(2) 前記連通部が、前記収納空間の底部の周縁領域に形成されている上記(1)記載のウェットティッシュ包装体、

(3) 前記取出孔形成部が前記収納容器空間内側に向かって凸に湾曲した湾曲した板状に形成されていて、その凸状に膨らんだ領域により前記連通部が形成されている上記(2)記載のウェットティッシュ包装体、

(4) 前記取付孔形成部が、上記取付孔形成部材に片持ち支持されていて、その片持ち支持部を中心に前記取付孔形成部の自由端側が上記収納容器内の空間側に回転することにより、上記連通部が形成され或いは広げられる上記

(1) から(3)のいずれかに記載のウェットティッシュ包装体、

（５）前記取出孔形成部材は、該取出孔形成部材の取付面を前記収納容器の内面側に向かい合わせて前記収納容器に取り付けられている上記（１）記載のウェットティッシュ包装体、
を要旨とする。

発明の効果

[0011] 本発明に係るウェットティッシュ包装体によれば、分離部におけるウェットティッシュ連続体の分離のタイミングが遅れて、ウェットティッシュ連続体の先端部分が余分に引き出されて収納空間内に長くなってしまっても、そのウェットティッシュ連続体の先端部分を、連通部を通じて収納容器の内部に押し込んで逃すことができる。その蓋体を確実に閉じて収納容器を密閉することができ、収納容器の内部に収納されたウェットティッシュ連続体に含まれた薬液等が揮発するのを防止することが可能になる。また、本発明に係るウェットティッシュ包装体によれば、使用者に対して、常に薬液等が含まれた状態のウェットティッシュを提供することも可能になる。

図面の簡単な説明

[0012] [図1]図１は、本発明の第１の実施の形態に係るウェットティッシュ包装体の外観構成を表す外観斜視図である。

[図2]図２は、図１のＡ－Ａ線断面を表した断面図である。

[図3]図３（ａ）（ｂ）は、ウェットティッシュ連続体の構成を表した図であり、（ａ）図は、ウェットティッシュ連続体の分断部の構成を表した部分拡大図、（ｂ）図は、ウェットティッシュ連続体の分断部の位置を説明するための説明図である。

[図4]図４（ａ）（ｂ）は、ウェットティッシュ連続体の別の形態を模式的に表した模式図であり、（ａ）図は、Ｚ折りと呼ばれる折り方をしたウェットティッシュ連続体を表した図、（ｂ）図は、ＷＺ折りと呼ばれる折り方をしたウェットティッシュ連続体を表した図である。

[図5]図５（ａ）（ｂ）は、蓋体を形成した取出孔形成部材の外観構成を表した外観斜視図であり、（ａ）図は、蓋体を閉じた状態を表した外観斜視図、

(b) 図は、蓋体を開いた状態を表した外観斜視図である。

[図6]図6 (a) (b) は、蓋体を形成した取出孔形成部材の外観構成を表した外観斜視図であり、(a) 図は、蓋体を開き、仕切り部を取り除いた状態を表した外観斜視図、(b) 図は、取出孔形成部材を下面側から見た場合の外観構成を表した外観斜視図である。

[図7]図7 (a) (b) は、取出孔形成部材の断面図であり、(a) 図は、図5 (b) のB-B線断面を表した断面図、(b) 図は、図6 (a) のC-C線断面を表した断面図である。

[図8]図8 (a) (b) (c) は、仕切り部を取り除く手順を説明するための説明図であり、(a) 図は仕切り部を取り除く前の状態を表す説明図、(b) 図は仕切り部を取り除いている状態を表す説明図、(c) 図は仕切り部を取り除いた状態を表す説明図である。

[図9]図9 (a) (b) は、ウェットティッシュを取り出す際の手順、及び本発明に係るウェットティッシュ包装体の作用効果を説明するための説明図であり、(a) 図は摘み孔に指を入れる時のウェットティッシュ包装体の状態を表す説明図、(b) 図はウェットティッシュ連続体の先端を摘んでいる状態を表す説明図である。

[図10]図10は、ウェットティッシュ連続体が取出孔等を通して引き出される様子を表す説明図である。

[図11]図11 (a) (b) (c) は、ウェットティッシュを取り出す際の手順、及び本発明に係るウェットティッシュ包装体の作用効果を説明するための説明図であり、(a) 図は摘み孔からウェットティッシュを取り出している状態を表す説明図、(b) 図はウェットティッシュを取り出した状態を表す説明図、(c) 図はウェットティッシュを収納空間内に収納した状態を表す説明図である。

[図12]図12 (a) (b) は、本発明の第2の実施の形態に係るウェットティッシュ包装体の取出孔形成部材の外観構成を表した図であり、(a) 図は蓋体を開いた状態を表した外観斜視図、(b) 図は閉塞部を取り除いた状態

を表した平面図である。

[図13]図13 (a) (b) は、本発明の第3の実施の形態に係るウェットティッシュ包装体の取出孔形成部材の外観斜視図であり、(a)図は蓋体を閉じた状態を表した外観斜視図、(b)図は蓋体を開いた状態を表した外観斜視図である。

[図14]図14 (a) (b) は、蓋体を形成した取出孔形成部材の外観構成を表した外観斜視図であり、(a)図は、蓋体を開き、仕切り部を取り除いた状態を表した外観斜視図、(b)図は、取出孔形成部材を下面側から見た場合の外観構成を表した外観斜視図である。

[図15]図15 (a) (b) (c) は、ウェットティッシュを取り出す際の手順、及び第3の実施の形態に係るウェットティッシュ包装体の作用を説明するための説明図であり、(a)図はウェットティッシュを引き出す前の状態を表す説明図、(b)図はウェットティッシュを引き出している状態を表す説明図、(c)図はウェットティッシュを収納空間に収納している状態を表す説明図である。

[図16]図16 (a) (b) は、本発明の第4の実施の形態に係るウェットティッシュ包装体の取出孔形成部材の外観斜視図であり、(a)図は、蓋体を開き、仕切り部を取り除いた状態を表した外観斜視図、(b)図は、取出孔形成部材を下面側から見た場合の外観構成を表した外観斜視図である。

[図17]図17 (a) (b) (c) は、第4の実施の形態に係るウェットティッシュ包装体の作用の説明をするための説明図であり、(a)図はウェットティッシュを引き出す前の状態を表す説明図、(b)図は、ウェットティッシュを引き出している状態を表す説明図、(c)図は、ウェットティッシュを収納空間に収納している状態を表す説明図である。

発明を実施するための形態

[0013] 本発明に係るウェットティッシュ包装体の第1の実施の形態の構成について、図1から図11に基づいて説明する。なお、本明細書における上下前後左右は、図1に示す上下前後左右方向を言うものとする。また、本明細書に

おいては、収納容器の一形態として袋体を用いた例について説明するが、収納容器としては袋体以外のものを任意に選択して使用してもよい。例えば、収納容器としては、プラスチック等の樹脂材料によって形成されたものを使用してもよい。また、本明細書において、「ウェットティッシュ包装体の未使用品」とは、製造時に収納容器内に収納したウェットティッシュ連続体が収納容器外に取り出されたことがなく、かつ後述する仕切り部や閉塞部が取り除かれていないものを意味する。

[0014] 図1に示すように、本実施の形態に係るウェットティッシュ包装体1は、上部に開口部2が開口形成された袋体3（即ち、収納容器）と、この袋体3の内面側にホットメルト等の任意な方法によって取り付けられた取出孔形成部材4と、取出孔形成部材4に取り付けられた蓋体5とを備えている。また、図2に示すように、ウェットティッシュ包装体1は、袋体3の内部にウェットティッシュ連続体6を収納している。

[0015] まず、ウェットティッシュ連続体6の構成について説明する。なお、本明細書においては、「ウェットティッシュ連続体」とは、後述する方法によって折り畳み状に積層され、袋体3内に収納されたものを意味し、「ウェットティッシュ」とは、ウェットティッシュ連続体6から分断されたシート状のもの、又はウェットティッシュ連続体6を構成するシート状のものを意味する。本実施の形態、後述する第2の実施の形態、第3の実施の形態及び第4の実施の形態では、ウェットティッシュ連続体の一例として折り畳み状に積層されたものを用いて説明するが、ウェットティッシュ連続体の構成はこれに限定されるものではない。例えば、ウェットティッシュ連続体として、ロール状に巻かれたものを使用してもよいし、これ以外の構成のものを使用してもよい。

[0016] ウェットティッシュ連続体6は、例えば、合成繊維若しくは天然繊維からなる紙、織布又は不織布等を用いて成形された基布に薬液等を含浸させたものである。薬液等としては、例えば、アルコール類、水又はこれらの混合物が挙げられる。また、薬液には、香料、抗菌剤、消臭剤、界面活性剤、防腐

剤、色素、消泡剤、酸化防止剤、清澄剤、可溶化剤、pH調整剤等を任意に選択して配合してもよい。なお、ウェットティッシュ連続体6を構成する基布及び薬液等について上記した材質は一例であり、上記した以外のものを任意に選択して用いてもよい。

[0017] ウェットティッシュ連続体6には、ウェットティッシュがミシン目等で繋がって構成されているもの、及び、個別独立した枚葉のウェットティッシュが後述するZ折等で折りたたまれるとともに折り畳まれた複数のウェットティッシュが互いに接触して構成されているものの双方が含まれる。また、本明細書においてウェットティッシュがウェットティッシュ連続体6から分断されるとは、例えば、ウェットティッシュがミシン目等で繋がって構成されている場合には、ウェットティッシュ連続体6がミシン目等の位置で引き裂かれてウェットティッシュとされることになる部分がウェットティッシュ連続体6から引き離されることを示し、また、個別に独立した枚葉のウェットティッシュが後述するZ折等を適宜用いて折り畳まれるとともに複数のウェットティッシュが互いに接触した構造を有してウェットティッシュ連続体6が構成されている場合には、複数のウェットティッシュが互いに接触した部分で、先端の一葉のウェットティッシュが剥がされてウェットティッシュ連続体6から引き離されることを示す。なお、ウェットティッシュ連続体6においてウェットティッシュが引き離されることになる部分を分離部と呼ぶ。

[0018] ウェットティッシュ連続体6について具体例を挙げて説明すると、図3に示すウェットティッシュ連続体6は、複数の折り返し部としての第1の折り返し部8及び第2の折り返し部9を有しており、連続して折り畳み状に積層されている。このウェットティッシュ連続体6には、所定間隔毎に分断部10（即ち、分離部）が形成されている。分断部10は、ウェットティッシュ連続体6の先端部を引き出した際に作用する引張力によって分断（即ち、分離）するように形成されている。図3（a）には、本実施の形態に係るウェットティッシュ連続体6の分断部10の一例を示す。分断部10は、ウェットティッシュ連続体6の先端部が引き出される際に、該ウェットティッシュ

連続体 6 に付与される引張力により分断することができるよう形成されている。図 3 (a) に示すように、分断部 10 は、ウェットティッシュ連続体 6 の幅方向に一定の間隔で複数の空間 11 が形成されており、この空間 11 の間に、ウェットティッシュ連続体 6 を構成するウェットティッシュ 7 同士を繋ぐ繋ぎ部 12 が形成されている。本実施の形態では、繋ぎ部 12 は、ウェットティッシュ連続体 6 の幅方向に対して 3 か所に形成されているが、この繋ぎ部 12 の形状はこれに限定されるものではない。また、分断部 10 は、引張り力が作用した時に分断されるように構成されていればよく、例えば、空間 11 と繋ぎ部 12 との間隔を短くしてミシン目状に形成してもよいし、これ以外の形状であってもよい。

[0019] 図 3 (b) は、分断部 10 がウェットティッシュ連続体 6 においてどの位置に位置するかを表した説明図である。この図では、黒丸で示した箇所が分断部 10 の位置を表している。図 3 (b) に示すように、ウェットティッシュ連続体 6 は、分断部 10 が第 1 の折り返し部 8 と第 2 の折り返し部 9 との間の中央部に位置し、且つ上下方向の関係では、分断部 10 があるものと分断部 10 がないものとが交互に位置するように構成されている。

[0020] 上記の例では、ウェットティッシュ連続体 6 に分離部として分断部 10 が形成されている場合について説明したが、ウェットティッシュ連続体 6 の形態はこれに限定されず、他の形態であってもよい。具体的に、次に例示するように、ウェットティッシュ連続体 6 は、折り畳まれた独立した 2 枚のウェットティッシュが重なり合う所定の部分が分断部（即ち、分離部）とされて形成されてもよい。ウェットティッシュ連続体 6 の他の形態の構成の例を図 4 に示す。図 4 (a) は、Z 折りと呼ばれる折り方をしたウェットティッシュ連続体、図 4 (b) は、WZ 折りと呼ばれる折り方をしたウェットティッシュ連続体の構成を表したものである。なお、ウェットティッシュ連続体 6 の折り構成は、ウェットティッシュ 7 が引き上げられた時に次のウェットティッシュ 7 が順次連続して引き上げられ、ウェットティッシュ 7 と次のウェットティッシュ 7 とが分離した後に、次のウェットティッシュ 7 の端部が後

述する取出孔 26 から飛び出した状態（以下においては、この状態のことを「ポップアップ」と言うこともある。）となるように構成されていればよく、上記した Z 折りや WZ 折りのみならず、W 折りやこれ以外の他の折り構成であってもよい。

[0021] 図 4（a）に示すように、Z 折りの折り構成を有するウェットティッシュ連続体 6 は、Z 字状に折られたウェットティッシュを複数積層して構成されている。また、Z 折りの折り構成を有するウェットティッシュ連続体 6 は、ウェットティッシュ 7 a の終端の上面 7 c と、次のウェットティッシュ 7 b の始端の下面 7 d とが重なり合うように積層されており、ウェットティッシュ 7 a を引き出すと、このウェットティッシュ 7 a の終端が次のウェットティッシュ 7 b の始端を引き上げるように作用する。そして、次のウェットティッシュ 7 b の始端が後述する取出孔 26 から該取出孔 26 の上部へ引き出された時に、ウェットティッシュ 7 a の終端と次のウェットティッシュ 7 b の始端とが分離するように構成されている。すなわち、ウェットティッシュ 7 a の終端と次のウェットティッシュ 7 b の始端との重なり合う部分が分断部（即ち、分離部）をなし、この分離部でウェットティッシュ 7 a が次のウェットティッシュ 7 b を有するウェットティッシュ連続体 6 から引き離されるのである。

[0022] 図 4（b）に示すように、WZ 折りの折り構成を有するウェットティッシュ連続体 6 は、Z 字状に折られたウェットティッシュ 7 e と、W 字状に折られたウェットティッシュ 7 f とを交互に積層して構成されている。図 4（b）の場合には、Z 折りされたウェットティッシュ 7 e の終端の上面 7 g と、次に位置する W 折りされたウェットティッシュ 7 f の始端の下面 7 h とが重なり合うように積層されており、Z 折りされたウェットティッシュ 7 e を引き出すと、このウェットティッシュ 7 e の終端が次の W 折りされたウェットティッシュ 7 f の始端を引き上げるように作用する。そして、この W 折りされたウェットティッシュ 7 f の始端が後述する取出孔 26 から該取出孔 26 の上部へ引き出された時に、Z 折りされたウェットティッシュ 7 e の終端と

W折りされたウェットティッシュ7 fの始端とが分離するように構成されている。なお、W折りされたウェットティッシュ7 fを引き出した後にZ折りされたウェットティッシュ7 iの始端が引き出される時も、同様の作用によって引き上げられる。すなわち、ウェットティッシュ7 eの終端と次のウェットティッシュ7 fの始端との重なり合う部分やウェットティッシュ7 fの終端と次のウェットティッシュ7 iの始端との重なり合う部分が分断部（即ち、分離部）をなし、この分離部でウェットティッシュ7 e、7 fが次のウェットティッシュ7 f、7 i有するウェットティッシュ連続体6から引き離されるのである。

[0023] なお、ウェットティッシュ連続体6の構成はこれに限定されるものではなく、袋体3に収納可能な構成であればどのような形状にしてもよい。例えば、本実施の形態では、分断部10の位置が第1の折り返し部8と第2の折り返し部9との間の中央部に位置するようにしているが、中央部以外の場所に分断部10を配置してもよい。また、第1の折り返し部8又は第2の折り返し部9が形成される位置に分断部10を配置してもよい。さらには、本実施の形態では、ウェットティッシュ連続体6の上下方向の関係では分断部10があるものと分断部10がないものとが交互に位置するように構成されているが、分断部10のあるものが上下に重なるように折り畳んでもよい。また、分断部10が、第1の折り返し部8が形成される位置と第2の折り返し部9が形成される位置との両方の位置にあってもよい。また、分断部も、上記した以外の構成としてもよい。

[0024] 次に、袋体3の構成について説明する。袋体3は、ウェットティッシュ連続体6を内部に収納するための収納容器である。袋体3は、気密性を有する可撓性のあるプラスチックフィルム等により、例えばピロー形状の袋状に形成されている。また、図1に示すように、袋体3は、前後方向の両端がヒートシール等によって気密に封止されている。

[0025] 図2に示すように、袋体3は、内層13と外層14の2層で構成されている。内層13には、例えば、ポリエチレン、ポリプロピレン、ポリエステル

、ポリアミド、塩化ビニル、塩化ビニリデン、セロハン等のプラスチックからなるフィルム若しくはこれら2種以上からなる積層フィルム又はこれらの単体フィルム、積層フィルムにアルミ箔を積層してなる複合フィルム等が用いられる。外層14には、例えば、ポリエチレンテレフタレート（PET）フィルムが用いられる。なお、本実施の形態では、内層13及び外層14の2層から構成された袋体3を用いているが、袋体3の構成はこれに限定されるものではない。例えば、袋体3を3層以上の多層にしてもよいし、1層で構成してもよい。また、内層13及び外層14の材質は、上記したものに限定されるものではない。

[0026] 図1及び図2に示すように、袋体3には開口部2が形成されている。開口部2は、収納容器としての袋体3の中に収納されたウェットティッシュ連続体6から分断したウェットティッシュ7を外方へ引き出すためのものである。本実施の形態では、開口部2は袋体3の上部に四角形状の開口として形成されているが、開口部2の形状はこれに限定されるものではない。また、開口部2は、ウェットティッシュ7を外方へ引き出すことができればよく、その大きさは任意に調節してよい。

[0027] 図2に示すように、袋体3の内側には取出孔形成部材4が取り付けられている。取出孔形成部材4は、後述する摘み孔22や取出孔26等の位置と袋体3の開口部2の位置とが一致する位置に取り付けられている。取出孔形成部材4を袋体3に取り付ける方法としては、例えばホットメルト等によるものが挙げられるが、これに限定されるものではなく、任意に選択した種々の方法を用いてよい。また、本明細書では、取出孔形成部材は、摘み孔と取出孔の位置が袋体の開口部の位置と一致する位置に取り付けられている例を用いて説明しているが、摘み孔の位置、取出孔の位置及び開口部の位置が一致していなくてもよい。

[0028] 図5（a）に示すように、本実施の形態に係る取出孔形成部材4と蓋体5とは、ヒンジ部5aを介して一体成型により形成されている。

[0029] 取出孔形成部材4は、例えば、ポリエチレン、ポリプロピレン等の熱可塑

性樹脂材料で形成されている。本実施の形態では、取出孔形成部材 4 を射出成形等の方法により一体成型したものをを用いて説明するが、取出孔形成部材 4 の各部を別体で形成して組み合わせてもよい。また、取出孔形成部材 4 は、上記した以外の方法で形成されていてもよい。

図 5 (a)、図 5 (b) 及び図 6 (a) に示すように、取出孔形成部材 4 は、該取出孔形成部材 4 を袋体 3 に取り付けするためのベース部としての基板 2 1、ウェットティッシュ 7 を袋体 3 の外方へ取り出すための摘み孔 2 2 を通じてウェットティッシュ連続体 6 の先端部 6 a を収納可能な収納空間 2 3、及びウェットティッシュ連続体 6 の分断部 1 0 でウェットティッシュ 7 を分断する取出孔 2 6 を開口形成した取出孔形成部 2 7 を有している。また、この例に示す取出孔形成部材 4 は、摘み孔 2 2 を閉塞するように設けられ収納空間 2 3 を複数に仕切る仕切り部 2 4、仕切り部 2 4 の周縁部に形成され所定のせん断力が作用した時に破壊する脆弱部 2 5 を備える。

[0030] 基板 2 1 は、四角形状の平板状に形成されており、上側の面が袋体 3 の内面側に取り付けられる時の取付面となるように形成されている。図 5 (a) の符号 2 8 が取付面である。取出孔形成部材 4 が袋体 3 に取り付けられた状態において、基板 2 1 に形成された取付面 2 8 は袋体 3 内面側に向かい合わせた状態とされている。また、基板 2 1 には、ヒンジ部 5 a を介して蓋体 5 が一体成型されている。基板 2 1 には、略中央部に取出凹部 2 9 が形成されている。取出凹部 2 9 は、基板 2 1 に対して高さ方向の位置が一段下がった凹状に形成されている。また、この取出凹部 2 9 は、取出孔形成部材 4 を平面視した時の形状が円形状となるように形成されている。

[0031] 取出凹部 2 9 には、縦壁部 3 0 が立設するように形成されている。この縦壁部 3 0 は、取出孔形成部材 4 を平面視した時の形状が円形状となるように形成されている。また、縦壁部 3 0 は、該縦壁部 3 0 の外径が取出凹部 2 9 の内径よりも小径となるように形成されている。さらに、縦壁部 3 0 は、取出凹部 2 9 の内壁 2 9 a の中心の位置と縦壁部 3 0 の中心の位置とが一致する位置に形成されている。すなわち、縦壁部 3 0 は、取出凹部 2 9 の内壁 2

9 aにより描かれる円と縦壁部30により描かれる円とが同心円となるように形成されている。また、図7に示すように、この縦壁部30は、上面の高さ方向の位置が基板21の上面の高さ方向の位置よりも低くなるように形成されており、蓋体5を閉じた時に、蓋体5の上面と基板21の上面とが略面一となるように形成されている。なお、本明細書では、縦壁部30の中心の位置が内壁29aの中心の位置と一致するように形成した例を用いて説明するが、これらの位置は、一致させずにずれていてもよい。

[0032] 図6(a)に示すように、摘み孔22は、使用者がウェットティッシュ7を取り出す際に、該ウェットティッシュ7を構成するウェットティッシュ連続体6の先端部6aを摘み、ウェットティッシュ7を袋体3の外方へ引き出すためのものである。この摘み孔22は、縦壁部30の内周側に開口形成されている。この摘み孔22は、使用者が袋体3の中に収納されているウェットティッシュ連続体6の先端部6aを指で摘み、該先端部6aを取り出すことができる大きさに形成されている。本実施の形態では、摘み孔22の孔径は、縦壁部30の内径と略同径となるように形成されている。なお、この摘み孔22の孔径は、使用者がウェットティッシュ連続体6の先端部6aを指で摘み、該先端部6aを取り出すことができればよく、本実施の形態の大きさや形状に限定されるものではなく、その大きさや形状は任意に選択してよい。例えば、摘み孔22を大きく形成すれば、使用者が摘み孔22に指を挿入しやすくなるので、ウェットティッシュ連続体6の先端部6aを引き出す際に引き出しやすくなり、取扱い性が向上する。一方、摘み孔22を小さく形成すれば、取出孔形成部材4を小型化することができ、取出孔形成部材4の製造コストを大幅に低減することができる。また、摘み孔を平面視した時の該摘み孔の形状は円形以外の他の形状であってもよい。

[0033] 図5(b)に示すように、摘み孔22は、ウェットティッシュ包装体1が未使用品である場合には、後述する仕切り部24により閉塞されており、仕切り部24を取り除くことによって、図6(a)に示すように開口形成される。

[0034] 収納空間 23 は、摘み孔 22 を通じてウェットティッシュ連続体 6 の先端部 6a を収納するためのものであり、図 7 (b) において点線で示す空間である。この収納空間 23 は、蓋体 5 が閉じられると、袋体 3 の内部の空間とともに密閉される。ウェットティッシュ包装体 1 は、該ウェットティッシュ包装体 1 が未使用品である場合には、摘み孔 22 が仕切り部 24 によって閉塞されているため、収納空間 23 は、仕切り部 24 によって、袋体 3 の内部に通じる側の空間と、該袋体 3 の外部に通じる側の空間とに仕切られている。そして、仕切り部 24 が取り除かれて摘み孔 22 が開口形成されると、収納空間 23 は図 7 (b) において点線で示す空間として形成される。

[0035] 仕切り部 24 は、摘み孔 22 を閉塞し、袋体 3 の内部と外部とを仕切るためのものである。また、仕切り部 24 は、収納空間 23 を袋体 3 の内部に通じる側の空間と、該袋体 3 の外部に通じる側の空間とに分断するためのものでもある。図 5 (b) 及び図 7 (a) に示すように、仕切り部 24 は、縦壁部 30 の内周側に形成されている。また、仕切り部 24 の上部には、タブ 31 が一体に形成されている。タブ 31 は、輪状に形成されており、奥側の一部が仕切り部 24 と繋がるように形成されている。

[0036] 脆弱部 25 は、仕切り部 24 の周縁部に形成されている。図 7 (a) に示すように、脆弱部 25 は、仕切り部 24 の周縁部において該仕切り部 24 の肉厚よりも薄肉の溝状に形成されており、所定のせん断力が作用した時に、該せん断力によって生じる応力により破壊することができるよう形成されている。ここで、「所定のせん断力」とは、仕切り部 24 の周縁部に形成された脆弱部 25 をせん断破壊させるために必要な従来から公知の大きさの力である。

[0037] 取出孔形成部 27 は、ウェットティッシュ連続体 6 に形成されている分断部 10 においてウェットティッシュ 7 を分断するとともに、ウェットティッシュ連続体 6 の先端部 6a をポップアップするためのものである。図 2 及び図 6 (b) に示すように、取出孔形成部 27 は、袋体 3 の内側に向かって凸に湾曲した板状に形成されていて、その湾曲端の両端部に一对の脚部 32a

、32bを有している。そして、この一対の脚部32a、32bが基板21の下側に該基板21と一体的に形成されていることによって、基板21と一体的に形成されている。この取出孔形成部27は、基板21の下側において、該基板21の取出凹部29が形成されている箇所下方に取出孔26が位置するように配置されている。また、この取出孔形成部27は湾曲形状をなすように形成されている。

[0038] 図6(b)に示すように、この取出孔形成部27には、該取出孔形成部27の前後方向の略中央部に取出孔26が開口形成されている。取出孔26は、左右方向に延びる長孔形状に形成されている。この取出孔26は、ウェットティッシュ連続体6の先端部6a等が通過する際、そこを通過するウェットティッシュ連続体6に摩擦抵抗力を付与することができる大きさに形成されている。また、取出孔形成部27には、取出孔26に対して、該取出孔26の前後方向両端に第1スリット33及び第2スリット34がそれぞれ形成されている。これら第1スリット33及び第2スリット34は、左右方向に延びる長孔形状に形成され、前後方向の幅が取出孔26の前後方向の幅よりも狭くなるように形成されている。また、第1スリット33及び第2スリット34は、これら第1スリット33と第2スリット34のそれぞれの幅が同じとなるように形成されている。これら第1スリット33及び第2スリット34も、ウェットティッシュ連続体6の先端部6aが通過する際、通過するウェットティッシュ連続体6の先端部6aに抵抗力を付与することができるように形成されている。

[0039] また、取出孔形成部27には、取出孔26と第1スリット33との間に第1突出片35が形成され、第1スリット33と第2スリット34との間に第2突出片36が形成されている。第1突出片35は、左側から右方向に向けて延びる左側突出片35aと、右側から左方向に向けて延びる右側突出片35bとからなり、これら左側突出片35aと右側突出片35bとの間には第1空隙部37が形成されている。また、第2突出片36は、左側から右方向に向けて延びる左側突出片36aと、右側から左方向に向けて延びる右側突

出片 3 6 b とからなり、これら左側突出片 3 6 a と右側突出片 3 6 b との間には第 2 空隙部 3 8 が形成されている。これら第 1 空隙部 3 7 と第 2 空隙部 3 8 は、左右方向において略同一直線状に位置するように形成されている。

[0040] 図 2 及び図 6 (a) に示すように、取出孔形成部材 4 には、逃げ部 3 9 (即ち、連通部) が形成されている。逃げ部 3 9 は、ウェットティッシュ連続体 6 の先端部 6 a が収納空間 2 3 に押し込まれた際、該先端部 6 a のうち収納空間 2 3 内に収納しきれなかった部分を袋体 3 の内部に押し込んで逃がすためのものである。この逃げ部 3 9 は、基板 2 1、湾曲した凸状の取出孔形成部 2 7、及び脚部 3 2 a、3 2 b で囲まれて形成されており、収納空間 2 3 と袋体 3 の内部の空間とを取出孔 2 6 等以外の領域で連通させる連通部をなすように形成されている。逃げ部 3 9 は、凸状に湾曲した形状で板状の取付孔形成部の凸状に膨らんだ部分の両側部により形成されている。なお、本実施の形態では、逃げ部 3 9 は、左方向と右方向に一つずつ形成されているが、逃げ部を形成する箇所は、例えば前方向や後方向でもよいし、それ以外の場所であってもよい。また、逃げ部 3 9 は、ウェットティッシュ連続体 6 の先端部 6 a が収納空間 2 3 と袋体 3 の内部の空間との間を行き来することができれば、大きさは任意に選択して用いてもよい。また、逃げ部 3 9 の数も任意に選択してよい。

[0041] なお、本実施の形態の取出孔形成部 2 7 は、一对の脚部 3 2 a、3 2 b 及び基板 2 1 とともに一体的に形成されているが、基板とは別体として形成してもよいし、これ以外の構成でもよい。

[0042] 蓋体 5 は、取出孔形成部材 4 に開閉自在に設けられており、取出孔形成部材 4 に形成された収納空間 2 3 を閉塞又は開放することが出来るように構成されている。なお、取出孔形成部材 4 と蓋体 5 とは別体で形成してもよいし、一体成型により形成する場合には、ヒンジ以外の構成によって一体成型してもよい。蓋体 5 は、取出孔形成部材 4 と同様の材料、例えば、ポリエチレン、ポリプロピレン等の熱可塑性樹脂材料で形成されている。

[0043] 図 6 (a) に示すように、蓋体 5 は、ヒンジ部 5 a を介して取出孔形成部

材４に一体的に成形されている。蓋体５は、該蓋体５を平面視した時の形状が円形状となるように形成されている。また、蓋体５の周縁部には側壁４１が形成されている。側壁４１は、蓋体５を平面視した時の周縁部に沿って形成されている。本実施の形態では、側壁４１は、円形状となるように形成されている。側壁４１は、蓋体５を閉じた時の中心の位置が、摘み孔２２や取出孔２６と同じ位置になるように形成されている。また、側壁４１は、内径が縦壁部３０の外径と略同じか、又は縦壁部３０の外径よりも大きく形成されており、蓋体５を閉じた時に縦壁部３０の外周面と側壁４１の内周面とが嵌合し、袋体３の内部を密閉することができるよう形成されている。

[0044] 次に、本実施の形態に係るウェットティッシュ包装体１において、仕切り部２４を取り除く手順について説明する。本実施の形態に係るウェットティッシュ包装体１は、使用者が使用する前の未使用品である場合には、図８（ａ）に示すように、取出孔形成部材４の仕切り部２４が存在している。この場合には、摘み孔２２は仕切り部２４によって閉塞されており、収納空間２３も仕切り部２４によって仕切られている。なお、蓋体５は、通常は閉じているが、図８（ａ）では蓋体５を開けた状態を示している。

[0045] 使用者がウェットティッシュ包装体１を最初に使用する時は、まず仕切り部２４を取り除く。仕切り部２４を取り除く場合には、使用者が指でタブ３１を摘み、図８（ｂ）中のＡ方向へ力を加える。このとき、タブ３１が仕切り部２４の上方に配置されているため、使用者がＡ方向に力を加えると、仕切り部２４にはＢ方向の力が作用する。このＢ方向の力は、脆弱部２５においてはせん断力として作用する。

[0046] 使用者が加えたＡ方向の力によって脆弱部２５にＢ方向のせん断力が作用すると、脆弱部２５は仕切り部２４よりも薄肉に形成されているために、脆弱部２５に作用する応力は脆弱部２５以外の場所に作用する応力よりも大きくなる。そのため、脆弱部２５は、せん断破壊を生じやすく、所定の応力が作用するとせん断破壊を生じ、仕切り部２４が取出孔形成部材４から取り除かれる。脆弱部２５では、所定のせん断力が作用する位置から徐々にせん断

破壊され、最終的に脆弱部 2 5 の全体においてせん断破壊する。脆弱部 2 5 の全体においてせん断破壊が生じると、図 8 (c) に示すように、仕切り部 2 4 が取り除かれて摘み孔 2 2 が開口形成される。

[0047] 図 8 (c) に示すように、上記した通りに仕切り部 2 4 が取り除かれると、摘み孔 2 2 が開口形成されるとともに、仕切り部 2 4 によって仕切られていた収納空間 2 3 も一つの空間として形成される。このように、仕切り部 2 4 を取り除くと、袋体 3 の中に収納されているウェットティッシュ連続体 6 の先端部 6 a を取り出せるようになる。

[0048] 次に、使用者がウェットティッシュ連続体 6 を引き出す手順について説明する。上記した手順で摘み孔 2 2 を開口形成すると、該摘み孔 2 2 を通じて袋体 3 の内部に配置された取り出孔形成部材の取出孔形成部 2 7 と取出孔 2 6 が袋体 3 の外部から視認できる。これは、取出孔形成部材 4 が、摘み孔 2 2 の前後左右方向の位置と袋体 3 の開口部 2 の前後左右方向の位置と一致する位置に取り付けられているからである。

[0049] 図 9 (a) に示すように、ウェットティッシュ包装体 1 は、ウェットティッシュ連続体 6 の先端部 6 a が取出孔形成部 2 7 の取出孔 2 6 よりも上に引き出されていない場合がある。例えば、ウェットティッシュ包装体 1 が未使用品である場合や、袋体 3 内のウェットティッシュ連続体 6 の先端部 6 a がポップアップされずに取出孔形成部 2 7 よりも下方へ落ちている場合などである。

[0050] この場合、使用者は、ウェットティッシュ連続体 6 の先端部 6 a を引き出す。該先端部 6 a を引き出す際、使用者は、先の手順で開口形成した摘み孔 2 2 の中に指を入れ、取出孔形成部 2 7 を下側に押すなどして、取出孔形成部材 4 (袋体 3 の上部も含む) を図 9 (a) 中の C 方向へ移動させ、該取出孔形成部 2 7 の下端面の最下端部をウェットティッシュ連続体 6 の上面に接近させる。なお、図 9 (a) において、二点鎖線で記載した取出孔形成部材は、該最下端部をウェットティッシュ連続体 6 の上面に接近させた一例として、取出孔形成部 2 7 の下端面の最下端部をウェットティッシュ連続体 6 の

上面と接触させた状態を表している。

[0051] 次に、図9（b）に示すように、使用者が指先でウェットティッシュ連続体6の先端部6aを摘み、取出孔26を通して引き上げる。このとき、ウェットティッシュ連続体6の先端部6a端部は前後方向に延びるように位置しており、左右方向においては、摘み孔22及び取出孔26の略中央に位置するように配置することが望ましい。取出孔26を通して引き上げられるウェットティッシュ連続体6は、図10に示すように、前後左右方向に広がりながら引き出される。したがって、ウェットティッシュ連続体6は、取出孔26の他、前後方向に広がっている部分は第1空隙部37及び第2空隙部38、並びに第1スリット33及び第2スリット34を通過し、取出孔形成部材4の上方に引き出される。なお、以下において、取出孔26、第1空隙部37、第2空隙部38、第1スリット33及び第2スリット34を「取出孔26等」と言うことがある。また、本発明の概念においては、「取出孔26等」を「取出孔」と称するものとする。

[0052] この時、ウェットティッシュ連続体6は、第1突出片35及び第2突出片36との間に生じる抵抗力により、これら第1突出片35及び第2突出片36に対してD方向（図11（a））の力を与えながら引き出される。そのため、ウェットティッシュ連続体6が引き出されている時は、第1突出片35及び第2突出片36にはD方向の力が作用し、これら第1突出片35及び第2突出片36は、D方向の力によって弾性変形する。

[0053] 図11（b）に示すように、ウェットティッシュ連続体6において分断部10が取出孔26等を通過すると、取出孔26等を通過する際の抵抗力、並びに第1突出片35及び第2突出片36の復元力によって、分断部10よりも下側のウェットティッシュ連続体6の先端部6a（ウェットティッシュ7）に対して図11（b）中E方向に力が作用する。一方、分断部10よりも上側のウェットティッシュ7には、使用者が引き上げることにより加わる図11（b）中のF方向の力が加わっている。そのため、分断部10には、E方向の力及びF方向の力が作用し、分断部10よりも上側のウェットティッ

シュ7と、分断部10よりも下側のウェットティッシュ7とが分断され、分断部10よりも上側のウェットティッシュ7は、一枚のシート状のウェットティッシュ7として、袋体3の外部に取り出される。そして、分断部10よりも下側のウェットティッシュ7は、分断された後はウェットティッシュ連続体6の先端部6aを構成するウェットティッシュ7となる。

[0054] 分断後にウェットティッシュ連続体6の先端部6aを構成するウェットティッシュ7は、図11(b)中の使用者によって作用していたF方向の力が作用しなくなるため、図11(c)中のG方向へ移動しようとする。このとき、先端部6aには、取出孔26等を通過する際に抵抗力が作用する。この時の抵抗力は、先端部6aを構成するウェットティッシュ7が移動しようとするG方向とは逆の方向に作用し、また抵抗力の大きさは、ウェットティッシュ7がG方向へ移動しようとする際に作用する力の大きさと釣り合うため、ウェットティッシュ7の先端部6aが取出孔形成部27よりも上側に位置した状態が維持されたポップアップされた状態となる。なお、この時、ウェットティッシュ連続体6の先端部6aが収納空間23内に収納しきれなかった場合には、先端部6aの一部が逃げ部39を通じて袋体3の内部の空間へ移動する。

[0055] 使用者は、ウェットティッシュ7を取り出した後は、蓋体5を閉じて袋体3を密閉し、その後更にウェットティッシュ7を取り出す際は、再度蓋体5を開けて摘み孔22に指を挿入し、既にポップアップされているウェットティッシュ連続体6の先端部6aを摘んで該ウェットティッシュ連続体6を引き出せばよい。そうすると、上記したと同様の作用により分断部10においてウェットティッシュ7が分断され、シート状のウェットティッシュ7が引き出される。

[0056] また、ウェットティッシュ7を再度取り出す際、ウェットティッシュ連続体6の先端部6aがポップアップされていなかった場合にも、上記したのと同じ手順でウェットティッシュ7を引き出せばよい。

[0057] 本実施の形態に係るウェットティッシュ包装体1は、ウェットティッシュ

7を引き出すにつれて、ウェットティッシュ連続体6の嵩が低くなる。しかし、本実施の形態に係るウェットティッシュ包装体1は、蓋体5が取出孔形成部材4に対して開閉自在に設けられているので、袋体3に収納されているウェットティッシュ連続体6の嵩が低くなっても、蓋体5を閉じることができ、袋体3を密閉状態にすることができる。したがって、本実施の形態に係るウェットティッシュ包装体1によれば、袋体3の密閉状態が維持されずにウェットティッシュ連続体6（ウェットティッシュ7）に含浸した薬液等が揮発するのを防止し、常に薬液等が含浸した状態のウェットティッシュ7を使用者に対して提供することが可能になる。

[0058] また、本実施の形態に係るウェットティッシュ包装体1によれば、該ウェットティッシュ包装体1が未使用品の場合には、仕切り部24で摘み孔22を閉塞しており、使用する時は仕切り部24の周縁部に形成された脆弱部25を破壊して仕切り部24を取り除き、摘み孔22を開口形成した後にウェットティッシュ連続体6の先端部6aを摘める構成にしたので、仕切り部24の有無によって、そのウェットティッシュ包装体1が未使用品か否かを極めて容易に判別することが可能になる。したがって、使用者がウェットティッシュ包装体1を使用する際や、ウェットティッシュ包装体1を購入する際に、そのウェットティッシュ包装体1が未使用品か否かを判別した上で使用又は購入することが可能になる。

[0059] また、本実施の形態に係るウェットティッシュ包装体1によれば、蓋体5を設けた取出孔形成部材4が袋体3の内面側に取り付けられているので、製造時に、取出孔形成部材4を袋体3に取り付けた後に蓋体5を取り付けるといったような工程を経ることなく、ウェットティッシュ包装体1を製造することが可能になる。したがって、本実施の形態に係るウェットティッシュ包装体1によれば、製造時における工程数を削減することができ、製造コストを大きく削減することも可能になる。また、本実施の形態に係るウェットティッシュ包装体1は、収納空間23と袋体3の内部の空間とを連通する逃げ部を有しているので、ウェットティッシュ連続体6の先端部6aを収納空間2

3に収納する際、該収納空間23だけでは先端部6aを収納しきれなかった場合に、逃げ部を通じて、先端部6aの一部を袋体3の内部に逃がすことができる。したがって、本実施の形態に係るウェットティッシュ包装体1によれば、ウェットティッシュ連続体6の先端部6aがポップアップされた量によらず、常に蓋体5を閉じて袋体3を密閉することができ、ウェットティッシュ連続体6（ウェットティッシュ7）に含浸した薬液等が揮発するのを防止することが可能になる。

[0060] 次に、本発明に係るウェットティッシュ包装体の第2の実施の形態について、図12に基づいて説明する。なお、第2の実施の形態の説明において、第1の実施の形態と同じ構成の箇所については説明を省略し、符号も同一のものを使用する。

[0061] 本実施の形態に係るウェットティッシュ包装体は、取出孔形成部材の構成が上記した第1の実施の形態とは相違するので、以下においては、取出孔形成部材の構成について説明する。

[0062] 本実施の形態に係る取出孔形成部材51は、袋体3の内側において、後述する取出孔54と袋体3の開口部2の位置とが一致する位置に取り付けられている。取出孔形成部材51を袋体3に取り付ける方法としては、例えばホットメルト等によるものが挙げられるが、これに限定されるものではなく、任意に選択した種々の方法を用いてよい。

[0063] 取出孔形成部材51は、例えば、ポリエチレン、ポリプロピレン等の熱可塑性樹脂材料で形成されている。本実施の形態では、取出孔形成部材51を射出成形等の方法により一体成型したものをを用いて説明するが、取出孔形成部材51の各部を別体で形成して組み合わせてもよい。また、取出孔形成部材51は、上記した以外の方法で形成されていてもよい。

[0064] 図12(a)に示すように、取出孔形成部材51は、該取出孔形成部材51を袋体3に取り付けるためのベース部としての基板52、ウェットティッシュ連続体の先端部を収納可能な収納空間53、ウェットティッシュ連続体の分断部でウェットティッシュ連続体を分断する取出孔54を備えている。

また、この例に示す取出孔形成部材 5 1 は、この取出孔 5 4 を閉塞するように設けられた閉塞部 5 5、この閉塞部 5 5 の周縁部に形成され所定のせん断力が作用した時に破壊する脆弱部 5 6 を備えている。

[0065] 基板 5 2 は、四角形状の平板状に形成されており、上側の面が袋体の内面側に取り付けられる時の取付面となるように形成されている。図 1 2 (a) の符号 5 7 が取付面である。取出孔形成部材 5 1 が袋体に取り付けられた状態において、基板 5 2 に形成された取付面 5 7 は袋体内面側に向かい合わせた状態とされている。また、基板 5 2 の上面には、ヒンジ部 5 a を介して蓋体 5 が一体成型されている。基板 5 2 には、略中央部に取出凹部 5 8 が形成されている。取出凹部 5 8 は、基板 5 2 に対して高さ方向の位置が一段下がった凹状に形成されている。また、この取出凹部 5 8 は、取出孔形成部材 5 1 を平面視した時の形状が円形状となるように形成されている。

[0066] 取出凹部 5 8 には、縦壁部 5 9 が立設するように形成されている。縦壁部 5 9 は、取出孔形成部材 5 1 を平面視した時の形状が円形状となるように形成されている。また、縦壁部 5 9 は、該縦壁部 5 9 の外径が取出凹部 5 8 の内径よりも小径となるように形成されている。さらに、縦壁部 5 9 は、取出凹部 5 8 の内壁の中心の位置と縦壁部 5 9 の中心の位置とが一致する位置に形成されている。すなわち、縦壁部 5 9 は、取出凹部 5 8 の内壁により描かれる円と縦壁部 5 9 により描かれる円とが同心円となるように形成されている。また、縦壁部 5 9 は、上面の高さ方向の位置が基板 5 2 の上面の高さ方向の位置よりも低くなるように形成されており、蓋体 5 を閉じた時に、蓋体 5 の上面と基板 5 2 の上面とが略面一となるように形成されている。

[0067] 収納空間 5 3 は、ウェットティッシュ連続体 6 の先端部 6 a を収納可能に形成された空間である。この収納空間 5 3 は、蓋体 5 が閉じられると密閉される。この収納空間 5 3 は、ウェットティッシュ包装体 1 が未使用品の場合であって蓋体 5 が閉じている時は、蓋体 5 と、閉塞部 5 5 と縦壁部 5 9 とにより囲まれている。また、収納空間 5 3 は、閉塞部 5 5 が取り除かれた使用品である場合あって蓋体 5 が閉じている時は、蓋体 5 と、縦壁部 5 9 とによ

り囲まれており、取出孔 5 4 を通じて袋体 3 の内部の空間と連通するように形成される。

[0068] 取出孔 5 4 は、ウェットティッシュ連続体 6 に形成されている分断部 1 0 においてウェットティッシュ 7 を分断するとともに、ウェットティッシュ連続体 6 の先端部 6 a をポップアップするためのものである。図 1 2 (b) に示すように、取出孔 5 4 は、基板 5 2 に開口形成されている。この取出孔 5 4 は、使用者がウェットティッシュ連続体 6 の先端部 6 a を摘むとともに該先端部 6 a を引き出し、そしてウェットティッシュ連続体 6 の先端 6 a がポップアップされた状態を維持することができるように形成されている。

[0069] 図 1 2 (b) に示すように、取出孔 5 4 は、縦壁部 5 9 で囲まれた領域の内部に形成されており、脆弱部 5 6 を破壊して閉塞部 5 5 を取り除くことによって開口形成される。この取出孔 5 4 は、収納空間 5 3 と袋体 3 の内部の空間とを連通するように形成されており、袋体 3 の内部に収納されているウェットティッシュ連続体 6 の先端部 6 a を摘み、摘んだ該先端部 6 a を袋体 3 の外部へ引き出し、さらに該先端部 6 a をポップアップした状態に維持するためのものである。図 1 2 (b) に示すように、取出孔 5 4 は、略中央に開口形成された左右方向へ幅広に形成されるとともに前後方向に広がる長孔形状をした摘み用孔 6 1 と、この摘み用孔 6 1 から円弧状の曲線を描きながら左方向に延びる第 1 取出用スリット 6 2 と、摘み用孔 6 1 から円弧状の曲線を描きながら右方向に延びる第 2 取出用スリット 6 3 とを備えている。第 1 取出用スリット 6 2 と第 2 取出用スリット 6 3 は、摘み用孔 6 1 から、該摘み用孔 6 1 に対して左方向へ曲線を描きながら延び、その後、右方向へ曲線を描きながら延びるように開口形成されている。なお、本実施の形態では、取出孔の形状を上記した形状にしているが、これに限定されるものではなく、これ以外の形状であってもよい。また、取出孔の形状は左右対称でなくてもよいし、また前後対称でなくてもよい。

[0070] 閉塞部 5 5 は、取出孔 5 4 を閉塞し、袋体 3 の内部と外部とを仕切るためのものである。この閉塞部 5 5 は、縦壁部 5 9 の内側に形成されている。ま

た、閉塞部 55 の上部には、タブ 60 が一体に形成されている。タブ 60 は、輪状に形成されており、奥側の一部が閉塞部 55 と繋がるように形成されている。

[0071] 脆弱部 56 は、閉塞部 55 の周縁部に形成されている。図 12 (a) に示すように、脆弱部 56 は、閉塞部 55 の周縁部において、該閉塞部 55 の肉厚よりも薄肉の溝状に形成されており、所定のせん断力が作用した時に、該せん断力によって生じる応力により破壊することができるよう形成されている。ここで、「所定のせん断力」とは、仕切り部 24 の周縁部に形成された脆弱部 25 をせん断破壊させるために必要な従来から公知の大きさの力である。

[0072] 次に、本実施の形態に係るウェットティッシュ包装体において、ウェットティッシュ連続体 6 の先端部 6a を取り出す際の作用効果について説明する。なお、本実施の形態において、閉塞部 55 を取り除く手順、及び閉塞部 55 を取り除いた後にウェットティッシュ連続体 6 の先端部 6a を引き出してウェットティッシュ 7 を取り出す手順は、第 1 の実施の形態と同様であるから、ここでの説明は省略する。

[0073] 図 12 (b) に示すように、本実施の形態に係る取出孔形成部材は、取出孔 54 が摘み用孔 61 と第 1 取出用スリット 62 と第 2 取出用スリット 63 とを有している。使用者は、ウェットティッシュ連続体 6 の先端部 6a を摘む時は、必要に応じて該取出孔形成部材 51 の最下端部とウェットティッシュ連続体 6 の上面とを接近させて、摘み用孔 61 を通じて該先端部 6a を摘み、袋体 3 の中から引き出す。このとき、ウェットティッシュ連続体 6 は、使用者が該先端部 6a を摘みやすい位置に配置されているので、使用者はウェットティッシュ連続体 6 の先端部 6a を容易に摘み、該先端部 6a を引き出すことができる。また、引き出されているウェットティッシュ連続体 6 (ウェットティッシュ 7) は、左右方向にも広がりながら引き出されるため、摘み用孔 61 の他に第 1 取出用スリット 62 及び第 2 取出用スリット 63 も通過しながら引き出される。

[0074] このとき、第1取出用スリット62及び第2取出用スリット63は上記した通り曲線を描くように形成されているので、ウェットティッシュ連続体6がこれら第1取出用スリット62及び第2取出用スリット63を通過する際に、ウェットティッシュ連続体6に対して前後左右方向の抵抗力が作用する。この抵抗力は、使用者がウェットティッシュ連続体6の先端部6aを引き出す力の方向とは逆方向に作用するので、ウェットティッシュ連続体6の分断部10が取出孔54を通過すると、該分断部10において分断されて、シート状のウェットティッシュ7が取り出される。

[0075] この時、ウェットティッシュ連続体6は、先端部6aが取出孔54の上部に飛び出ており、下方へ移動しようとする。しかし、この場合においても、摘み用孔61、第1取出用スリット62及び第2取出用スリット63によってウェットティッシュ連続体6には抵抗力が作用する。この時の抵抗力は、ウェットティッシュ連続体6の先端部6aが下方へ移動しようとする方向とは逆方向に作用しており、力の大きさは該先端部6aが移動しようとする際の力の大きさと釣り合う。そのため、ウェットティッシュ連続体6の先端部6aは、取出孔54によって下方へ移動せず、取出孔54の上方に飛び出た状態、すなわちポップアップされた状態が維持されることになる。このとき、該先端部6aは、収納空間53内に収納されている。使用者が蓋体5を閉じると、収納空間53は密閉され、該収納空間53及び袋体3内に収納されているウェットティッシュ連続体6の湿潤状態が維持される。

[0076] このように、本実施の形態に係るウェットティッシュ包装体によれば、取出孔形成部材51に形成した取出孔54を形成し、この取出孔51には摘み用孔61、第1取出用スリット62及び第2取出用スリット63を形成したので、取出孔形成部材51の形状を複雑化することなく、ウェットティッシュ7を容易に取り出すことが可能になる。また、本実施の形態に係るウェットティッシュ包装体によれば、取出孔形成部材51に蓋体5を形成しているので、ウェットティッシュ連続体6の嵩が低くなっても、蓋体5を閉じることのみによって袋体3を密閉することができ、袋体3に収納されたウェット

ティッシュ連続体 6 の湿潤状態を維持することが可能になり、常に薬液等が含浸した状態のウェットティッシュ 7 を使用者に対して提供することが可能になる。

[0077] また、本実施の形態に係るウェットティッシュ包装体によれば、該ウェットティッシュ包装体が未使用品の場合には、閉塞部 5 5 で取出孔 5 4 を閉塞しており、使用する時は閉塞部 5 5 の周縁部に形成された脆弱部 5 6 を破壊して閉塞部 5 5 を取り除き、取出孔 5 4 を開口形成した後にウェットティッシュ連続体 6 の先端部 6 a を摘める構成にしたので、取出孔 5 4 の有無によって、そのウェットティッシュ包装体が未使用品か否かを極めて容易に判別することが可能になる。したがって、使用者がウェットティッシュ包装体を使用する際や、ウェットティッシュ包装体を購入する際に、そのウェットティッシュ包装体が未使用品か否かを判別した上で使用又は購入することが可能になる。

[0078] また、本実施の形態に係るウェットティッシュ包装体によれば、蓋体 5 を設けた取出孔形成部材 5 1 が袋体 3 の内面側に取り付けられているので、製造時に、取出孔形成部材 5 1 を袋体 3 に取り付け後に蓋体 5 を取り付けるというような工程を経ることなく、ウェットティッシュ包装体を製造することが可能になる。したがって、本実施の形態に係るウェットティッシュ包装体によれば、製造時における工程数を削減することができ、製造コストを大きく削減することも可能になる。

[0079] 次に、本発明の第 3 の実施の形態に係るウェットティッシュ包装体について、図 1 3 ～図 1 5 に基づいて説明する。なお、第 3 の実施の形態の説明において、第 1 の実施の形態又は第 2 の実施の形態と同じ構成の箇所については説明を省略し、符号も同一のものを使用する。

[0080] 本実施の形態に係るウェットティッシュ包装体は、取出孔形成部材 7 1 の構成が上記した第 1 の実施の形態及び第 2 の実施の形態とは相違するので、以下においては、取出孔形成部材 7 1 の構成について説明する。

[0081] 本実施の形態に係る取出孔形成部材 7 1 は、袋体 3 の内面側に、後述する

取出孔 77 と袋体 3 の開口部 2 の位置とが一致する位置に取り付けられている。取出孔形成部材 71 を袋体 3 に取り付ける方法としては、例えばホットメルト等によるものが挙げられるが、これに限定されるものではなく、任意に選択した種々の方法を用いてよい。

[0082] 図 13 (a) に示すように、取出孔形成部材 71 は、取出孔形成部材 71 を袋体 3 に取り付けるためのベース部としての基板 72、ウェットティッシュ 7 を袋体 3 の外方へ取り出すための摘み孔 73 を通じてウェットティッシュ連続体 6 の先端部 6a を収納可能な収納空間 74、及びウェットティッシュ連続体 6 の分断部 10 でウェットティッシュ 7 を分断する取出孔 77 を開口形成した取出孔形成部 78 を有している。また、この例に示す取出孔形成部材 71 は、摘み孔 73 を閉塞するように設けられ収納空間 74 を複数に仕切る仕切り部、仕切り部の周縁部に形成され所定のせん断力が作用した時に破壊する脆弱部を備えている。なお、本実施の形態における基板 72、摘み孔 73、収納空間 74、仕切り部及び脆弱部の構成は先に説明した第 1 の実施の形態と同様であるので、ここでの詳細な説明は省略する。

[0083] 図 13 及び図 14 に示すように、本実施の形態に係るウェットティッシュ包装体は、取出孔形成部 78 がベース部としての基板 72 により片持ち支持されていることを特徴とするものである。取出孔形成部 78 は、ウェットティッシュ連続体 6 に形成されている分断部 10 においてウェットティッシュ 7 を分断するとともに、ウェットティッシュ連続体 6 の先端部 6a をポップアップするためのものである。取出孔形成部 78 は、前側の端部に脚部 79 を有しており、この脚部 79 が基板 72 の下側において該基板 72 と一体的に形成されていることにより、基板 72 と一体的に形成されている。すなわち、取出孔形成部 78 は、脚部 79 を介して基板 72 により片持ち支持されている。この取出孔形成部 78 は、基板 72 の下側において、該基板 72 の取出凹部が形成されている箇所下方に取出孔 77 が位置するように配置されている。また、この取出孔形成部 78 は湾曲形状をなすように形成されている。

[0084] 図14(b)に示すように、取出孔形成部78には、該取出孔形成部78の前後方向の略中央部に取出孔77が開口形成されている。取出孔77は、左右方向に延びる長孔形状に形成されている。この取出孔77は、ウェットティッシュ連続体6の先端部6a等が通過する際、通過するウェットティッシュ連続体6の先端部6aに抵抗力を付与することができる大きさに形成されている。また、取出孔形成部78には、取出孔77に対して、該取出孔77の前後方向両端に第1スリット80及び第2スリット81がそれぞれ形成されている。これら第1スリット80及び第2スリット81は、左右方向に延びる長孔形状に形成され、前後方向の幅が取出孔77よりも狭くなるように形成されている。また、第1スリット80及び第2スリット81は、これら第1スリット80と第2スリット81のそれぞれの幅が同じとなるように形成されている。これら第1スリット80及び第2スリット81も、ウェットティッシュ連続体6の先端部6aが通過する際、通過するウェットティッシュ連続体6の先端部6aに抵抗力を付与できるように形成されている。

[0085] また、取出孔形成部78には、取出孔77と第1スリット80との間に第1突出片82が形成され、第1スリット80と第2スリット81との間に第2突出片83が形成されている。第1突出片82は、左側から右方向に向けて延びる左側突出片82aと、右側から左方向に向けて延びる右側突出片82bとからなり、これら左側突出片82aと右側突出片82bとの間には第1空隙部84が形成されている。また、第2突出片83は、左側から右方向へ延びる左側突出片83aと、右側から左方向に向けて延びる右側突出片83bとからなり、これら左側突出片83aと右側突出片83bとの間には第2空隙部85が形成されている。これら第1空隙部84と第2空隙部85は、左右方向において略同一直線状に位置するように形成されている。

[0086] 図13及び図14に示すように、取出孔形成部材71には、逃げ部86が形成されている。逃げ部86は、ウェットティッシュ連続体6の先端部6aが収納空間74に押し込まれた際、該収納空間74内に収納しきれなかった

部分を袋体 3 の内部に逃がすためのものである。この逃げ部 8 6 は、基板 7 2、取出孔形成部 7 8、及び脚部 7 9 で囲まれて形成されており、収納空間 7 4 と袋体 3 の内部の空間とを連通するように形成されている。なお、本実施の形態では、逃げ部 8 6 は、脚部 7 9 が形成されていない取出孔形成部 7 8 の右側、左側及び後側に形成されているが、逃げ部 8 6 を形成する場所は、上記した以外の場所であってもよい。また、逃げ部 8 6 は、ウェットティッシュ連続体 6 の先端部 6 a が収納空間 7 4 と袋体 3 の内部の空間との間を行き来することができれば、大きさは任意に選択して用いてよい。また、逃げ部の数も、取出孔形成部 7 8 が基板 7 2 によって片持ち支持することが出来ていれば、任意に選択してよい。

[0087] 次に、本実施の形態に係るウェットティッシュ包装体の作用について説明する。図 1 5 (a) に示すように、本実施の形態に係る取出孔形成部材 7 1 は、取出孔形成部 7 8 の前側に形成された脚部 7 9 が基板 7 2 の下側に一体的に形成されており、取出孔形成部 7 8 の後側は自由端となるように形成されている。ここで、使用者がウェットティッシュ連続体 6 の先端部 6 a を摘み、該先端部を図 1 5 (b) に示す H 方向へ引き上げると、取出孔形成部 7 8 は、ウェットティッシュ連続体 6 が引き上げられる際に、取出孔 7 7 等に付与する H 方向の力により、脚部 7 9 を支点として自由端側が I 方向に弾性変形する。このとき、逃げ部 8 6 は狭くなる。次に、使用者がウェットティッシュ 7 を取り出した後、ウェットティッシュ連続体 6 の先端部 6 a を収納空間 7 4 内に収納するために、該先端部を図 1 3 (c) に示す J 方向へ押し下げようとする、該先端部 6 a が J 方向へ移動する際、取出孔 7 7 等に付与する力によって、脚部 7 9 を支点として自由端が K 方向に弾性変形して袋体 2 内の空間側に回動する。これにより、逃げ部 8 6 が広くなる。

[0088] このように、本実施の形態に係るウェットティッシュ包装体によれば、上記した第 1 の実施の形態に係るウェットティッシュ包装体 1 の効果に加え、取出孔形成部 7 8 が脚部 7 9 を支点として弾性変形することにより、ウェットティッシュ連続体 6 の先端部 6 a を取り出すときの取り出し易さを大幅に

向上させることが可能になるとともに、ウェットティッシュ連続体 6 の先端部 6 a を収納空間 7 4 内に収納する際には、取出孔形成部 7 8 が脚部 7 9 を支点として弾性変形して回転することで、収納空間 7 4 を広げることが可能になる。したがって、本実施の形態に係るウェットティッシュ包装体によれば、ウェットティッシュの取り出し易さと収納しやすさを大幅に向上させることが可能になる。また、このとき、収納空間 7 4 と共に逃げ部 8 6 も広くすることが可能になる。したがって、本実施の形態に係るウェットティッシュ包装体によれば、ウェットティッシュの収納しやすさをさらにより向上させることも可能になる。

[0089] 次に、本発明に係るウェットティッシュ包装体の第 4 の実施の形態について、図 1 6 及び図 1 7 に基づいて説明する。なお、第 4 の実施の形態の説明について、第 1 ～第 3 の実施の形態と同じ構成の箇所については説明を省略し、符号も同一のものを使用する。

[0090] 本実施の形態に係るウェットティッシュ包装体は、取出孔形成部材 9 1 の構成が上記した第 1 ～第 3 の実施の形態とは相違するので、以下においては、取出孔形成部材 9 1 の構成について説明する。

[0091] 本実施の形態に係る取出孔形成部材 9 1 は、袋体 3 の内側において、後述する取出孔 1 1 1 と袋体 3 の開口部 2 の位置とが一致する位置に取り付けられている。取出孔形成部材 9 1 を袋体 3 に取り付けする方法としては、例えばホットメルト等によるものが挙げられるが、これに限定されるものではなく、任意に選択した種々の方法を用いてよい。

[0092] 図 1 6 (a) に示すように、取出孔形成部材 9 1 は、取出孔形成部材 9 1 を袋体 3 に取り付けるためのベース部としての基板 9 2、ウェットティッシュ 7 を袋体 3 の外方へ取り出すための摘み孔 9 3 を通じてウェットティッシュ連続体 6 の先端部 6 a を収納可能な収納空間 9 4、及びウェットティッシュ連続体 6 の分断部 1 0 でウェットティッシュ 7 を分断する取出孔 1 1 1 を開口形成した取出孔形成部 9 6 を有している。また、この例に示す取出孔形成部材 9 1 は、摘み孔 9 3 を閉塞するように設けられ収納空間 9 4 を複数に

仕切る仕切り部、仕切り部の周縁部に形成され所定のせん断力が作用した時に破壊する脆弱部を備えている。なお、本実施の形態における基板 9 2、摘み孔 9 3、収納空間 9 4、仕切り部及び脆弱部の構成は先に説明した第 1 の実施の形態と同様であるので、ここでの説明は省略する。

[0093] 図 1 6 (b) に示すように、本実施の形態に係るウェットティッシュ包装体は、取出孔形成部が複数に分割形成されており（本実施の形態の場合には、取出孔形成部 9 6 が第 1 取出孔形成部 9 7 と第 2 取出孔形成部 9 8 から構成されている。）、各取出孔形成部の各自由端が対向するようにベース部としての基板に片持ち支持されていることを特徴とするものである。なお、本実施の形態では、取出孔形成部 9 6 は第 1 取出孔形成部 9 7 及び第 2 取出孔形成部 9 8 の二つから形成した態様を用いて説明するが、取出孔形成部 9 6 を二つ以上にしてもよい。

[0094] 取出孔形成部 9 6 は、ウェットティッシュ連続体 6 に形成されている分断部 1 0 においてウェットティッシュ 7 を分断するとともに、ウェットティッシュ連続体 6 の先端部 6 a をポップアップするためのものである。第 1 取出孔形成部 9 7 は、前側の端部に脚部 1 0 1 a を有しており、この脚部 1 0 1 a が基板 9 2 の下側において該基板 9 2 と一体的に形成されていることにより、基板 9 2 と一体的に形成されている。すなわち、第 1 取出孔形成部 9 7 は、脚部 1 0 1 a を介して基板 9 2 に片持ち支持されている。また、第 2 取出孔形成部 9 8 は、後側の端部に脚部 1 0 1 b を有しており、この脚部 1 0 1 b が基板 9 2 の下側において該基板 9 2 と一体的に形成されていることにより、基板 9 2 と一体的に形成されている。すなわち、第 2 取出孔形成部 9 8 は、脚部 1 0 1 b を介して基板 9 2 に片持ち支持されている。

[0095] 図 1 6 (b) に示すように、第 1 取出孔形成部 9 7 には、該取出孔形成部 9 6 の後部に第 1 取出孔形成部凹部 1 0 2 が形成されている。また、第 1 取出孔形成部凹部 1 0 2 の前側には、第 1 スリット 1 0 3 及び第 2 スリット 1 0 4 が形成されている。これら第 1 スリット 1 0 3 及び第 2 スリット 1 0 4 は、左右方向に延びる長孔形状に形成され、前後方向の幅が第 1 取出孔形成

部凹部１０２の幅と略同一となるように形成されている。また、第１スリット１０３及び第２スリット１０４は、これら第１スリット１０３と第２スリット１０４のそれぞれの幅が同じとなるように形成されている。これら第１スリット１０３及び第２スリット１０４も、ウェットティッシュ連続体６の先端部６ａが通過する際、通過するウェットティッシュ連続体６の先端部６ａに抵抗力を付与することができるように形成されている。

[0096] また、第１取出孔形成部９７には、第１取出孔形成部凹部１０２と第１スリット１０３との間に第１突出片１０５が形成され、第１スリット１０３と第２スリット１０４との間に第２突出片１０６が形成されている。第１突出片１０５は、左側から右方向に向けて延びる左側突出片１０５ａと、右側から左方向に向けて延びる右側突出片１０５ｂとからなり、これら左側突出片１０５ａと右側突出片１０５ｂとの間には第１空隙部１０７が形成されている。また、第２突出片１０６は、左側から右方向に向けて延びる左側突出片１０６ａと、右側から左方向に向けて延びる右側突出片１０６ｂとからなり、これら左側突出片１０６ａと右側突出片１０６ｂとの間には第２空隙部１０８が形成されている。これら第１空隙部１０７と第２空隙部１０８は、左右方向において略同一直線状に位置するように形成されている。

[0097] 第２取出孔形成部材９１は、該取出孔形成部９６の前側に第２取出孔形成凹部１０９が形成されている。また、第１取出孔形成部凹部１０２の後側には、第１スリット１０３及び第２スリット１０４が形成されている。これら第１スリット１０３及び第２スリット１０４、第１突出片１０５及び第２突出片１０６、並びに第１空隙部１０７及び第２空隙部１０８の構成は第１取出孔形成部９７と同じであるから、ここでの説明は省略する。

[0098] これら第１取出孔形成部９７と第２取出孔形成部９８は、基板９２の下面に、脚部１０１ａ、１０１ｂの反対側となる自由端同士が対向するように形成されている。すなわち、第１取出孔形成部９７の自由端１０１ｃは、脚部１０１ａよりも後側に位置するように形成され、第２取出孔形成部９８の自由端１０１ｄは、脚部１０１ｂよりも前側に位置するように形成されている。

。これら第1取出孔形成部97の自由端101cと第2取出孔形成部98の自由端101dとの間には第3空隙部110が形成されており、第1取出孔形成部97及び第2取出孔形成部98が弾性変形した時に、第1取出孔形成部97の自由端101cと第2取出孔形成部98の自由端101dとが接触しないように構成されている。また、第1取出孔形成部97及び第2取出孔形成部98は、第1取出孔形成部凹部102と第2取出孔形成部凹部109とがそれぞれ対向するように配置される。このように、第1取出孔形成部凹部102と第2取出孔形成部凹部109とによって形成された空間が取出孔111となる。すなわち、本実施の形態の取出孔111は、左右方向に延びる長孔形状の孔であって、左右両端側に第3空隙部110が形成されているとも言える。なお、本実施の形態では、第3空隙部110を取出孔形成部材91の前後方向の略中央に設けているが、第3空隙部110を設ける位置はこれに限定されるものではない。

[0099] 図16及び図17に示すように、取出孔形成部材91には、逃げ部112が形成されている。逃げ部112は、ウェットティッシュ連続体6の先端部6aが収納空間94に押し込まれた際、該収納空間94内に収納しきれなかった部分を袋体3の内部に逃がすためのものである。この逃げ部112は、基板92、脚部101a、第1取出孔形成部97、第2取出孔形成部98及び脚部101bで囲まれて形成されており、収納空間94と袋体3の内部の空間とを連通するように形成されている。なお、本実施の形態では、逃げ部112は、脚部101a、101bが形成されていない第1取出孔形成部97及び第2取出孔形成部98の右側及び左側に形成されているが、逃げ部112を形成する場所は、上記した以外の場所であってもよい。また、逃げ部112は、ウェットティッシュ連続体6の先端部6aが収納空間94と袋体3の内部の空間との間を行き来することができれば、大きさは任意に選択して用いてもよい。また、逃げ部112の数も、取出孔形成部96が基板92によって片持ち支持することが出来ていれば、任意に選択してよい。

[0100] 次に、本実施の形態に係るウェットティッシュ包装体の作用について説明

する。図 17 (a) に示すように、本実施の形態に係る取出孔形成部 96 は、第 1 取出孔形成部 97 と第 2 取出孔形成部 98 とから構成されている。第 1 取出孔形成部 97 は、第 1 取出孔形成部 97 の前側に形成された脚部 101 a が基板 92 の下側に一体的に形成されており、第 1 取出孔形成部 97 の後側は自由端 101 c となるように形成されている。また、第 2 取出孔形成部 98 は、第 2 取出孔形成部 98 の後側に形成された脚部 101 b が基板 92 の下側に一体的に形成されており、第 2 取出孔形成部 98 の前側は自由端 101 d となるように形成されている。上記した通り、第 1 取出孔形成部 97 の自由端 101 c と第 2 取出孔形成部 98 の自由端 101 d との間には第 3 空隙部 110 が形成されている。また、第 1 取出孔形成部 97 の自由端 101 c に形成された第 1 取出孔形成部凹部 102 と第 2 取出孔形成部 98 の自由端 101 d に形成された第 2 取出孔形成部凹部 109 によって、取出孔 111 が形成されている。

[0101] ここで、使用者がウェットティッシュ連続体 6 の先端部 6 a を摘み、該先端部 6 a を図 17 (b) に示す L 方向へ引き上げると、第 1 取出孔形成部 97 は、ウェットティッシュ連続体が引き上げられる際に、第 1 取出孔形成部凹部 102 に付与する L 方向の力により、脚部 101 a を支点として自由端 101 c が M 方向に弾性変形する。また、第 2 取出孔形成部 98 は、ウェットティッシュが引き上げられる際に、第 2 取出孔形成部凹部 109 に付与する L 方向の力により、脚部 101 b を支点として自由端 101 d が M 方向に弾性変形する。

[0102] また、使用者がウェットティッシュ 7 を取り出した後、ウェットティッシュ連続体 6 の先端部 6 a を収納空間 94 内に収納するために、該先端部 6 a を図 17 (c) に示す N 方向へ押し下げようとすると、第 1 取出孔形成部 97 は、該先端部が O 方向へ移動する際に第 1 取出孔形成部凹部 102 等に付与する力によって、脚部 101 a を支点として自由端 101 c が O 方向に弾性変形する。同様に、第 2 取出孔形成部 98 は、該先端部 6 a が O 方向へ移動する際に第 2 取出孔形成部凹部 109 等に付与する力によって、脚部 10

1 bを支点として自由端1 0 1 dがO方向に弾性変形する。

[0103] このように、本実施の形態に係るウェットティッシュ包装体によれば、上記した第1の実施の形態に係るウェットティッシュ包装体1の効果に加え、第1取出孔形成部9 7が脚部1 0 1 aを支点として弾性変形し、第2取出孔形成部9 8が脚部1 0 1 bを支点として弾性変形することにより、ウェットティッシュ連続体6の先端部6 aを取り出す時の取出し易さを大幅に向上させることが可能になる。また、ウェットティッシュ連続体6の先端部6 aを収納空間9 4内に収納する際には、第1取出孔形成部9 7が脚部1 0 1 aを支点として弾性変形し、第2取出孔形成部9 8が脚部1 0 1 bを支点として弾性変形することで、収納空間9 4を広げることが可能になる。したがって、本実施の形態に係るウェットティッシュ包装体によっても、ウェットティッシュの取り出し易さと収納しやすさを大幅に向上させることが可能になる。また、本実施の形態に係るウェットティッシュ包装体によれば、収納空間9 4が広がった際、該収納空間9 4と共に逃げ部1 1 2も広くなる。したがって、本実施の形態に係るウェットティッシュ包装体によれば、ウェットティッシュの収納しやすさをさらにより向上させることも可能になる。

[0104] なお、本明細書では、蓋体5は、ヒンジ5 aを介して取出孔形成部材4と一体成型されている例を用いて説明したが、取出孔形成部材4とは別体で成型してもよい。また、蓋体5と取出孔形成部材4とを一体成型する場合、これら蓋体5と取出孔形成部材4との間にヒンジ部5 a以外の別のものを介するように構成してもよいし、ヒンジ部5 aやヒンジ部5 a以外のものを介せずに構成してもよい。

[0105] また、本明細書では、脆弱部は仕切り部の肉厚よりも薄肉の溝としているが、脆弱部に対して上記した所定のせん断力が作用した時に、該脆弱部に応力集中が生じて該脆弱部が破壊すればよく、本実施の形態の形状以外の形状を任意に選択してよい。また、脆弱部を形成する方法も、従来から公知の方法を任意に選択して適用してよい。例えば、超音波を用いて脆弱部を形成してもよいし、プレスにより圧力を加えて脆弱部を形成してもよい。また、レ

一ザを用いて脆弱部を形成してもよいし、これら以外の方法で脆弱部を形成してよい。また、本実施の形態では、脆弱部を一体成型により形成しているが、一体成型により形成した場合に限定されるものではない。

[0106] また、本発明に係る第1の実施の形態、第3の実施の形態及び第4の実施の形態では、取出孔形成部に第1スリット、第2スリットを形成するとともに、第1突出片及び第2突出片を形成するようにしており、第2の実施の形態では、取出孔形成部に第1取出用スリット及び第2取出用スリットを形成しているが、これらは一例であり、本発明の趣旨を逸脱しない範囲で、適宜変更してもよい。また、第1の実施の形態、第3の実施の形態及び第4の実施の形態において形成されている第1スリット、第2スリット、第1突出片、第2突出片及び取出孔の大きさは、ウェットティッシュ連続体の先端部を取り出すことができ、該先端部をポップアップすることができれば、任意に選択してよい。また、第2の実施の形態において形成されている取出孔、第1取出用スリット及び第2取出用スリットの大きさも、ウェットティッシュ連続体の先端部を取り出すことができ、該先端部をポップアップすることができれば、任意に選択してよい。

[0107] また、本明細書においては、取出孔形成部が基板と一体的に成形されている例を用いて説明したが、これに限定されるものではなく、取出孔形成部と基板とを別体として形成してもよい。また、本明細書では、取出孔形成部材を湾曲するように形成しているが、これに限定されるものではない。

[0108] また、以上において詳細に説明したウェットティッシュ包装体は、本発明に係るウェットティッシュ包装体の一例であり、本発明の趣旨を逸脱しない範囲で、適宜変更してもよい。

符号の説明

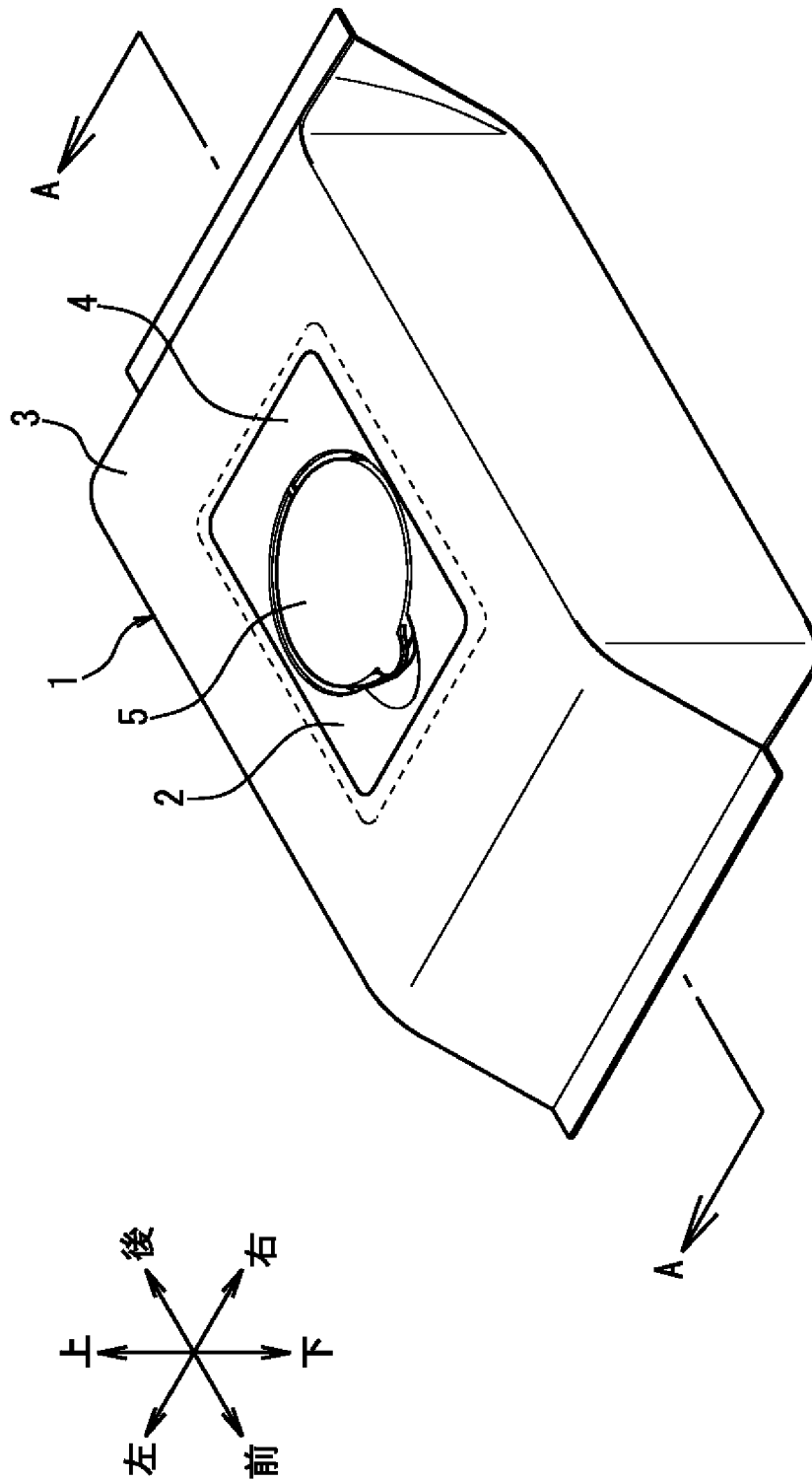
- [0109] 1 ウェットティッシュ包装体
2 開口部
3 袋体（収納容器）
4, 51, 71, 91 取出孔形成部材

- 5 蓋体
- 6 ウェットティッシュ連続体
- 7 ウェットティッシュ
- 10 分断部（分離部）
- 23, 53, 74, 94 収納空間
- 26, 54, 111 取出孔
- 27, 78, 96 取出孔形成部
- 39 逃げ部（連通部）
- 55 閉塞部
- 97 第1取出孔形成部
- 98 第2取出孔形成部

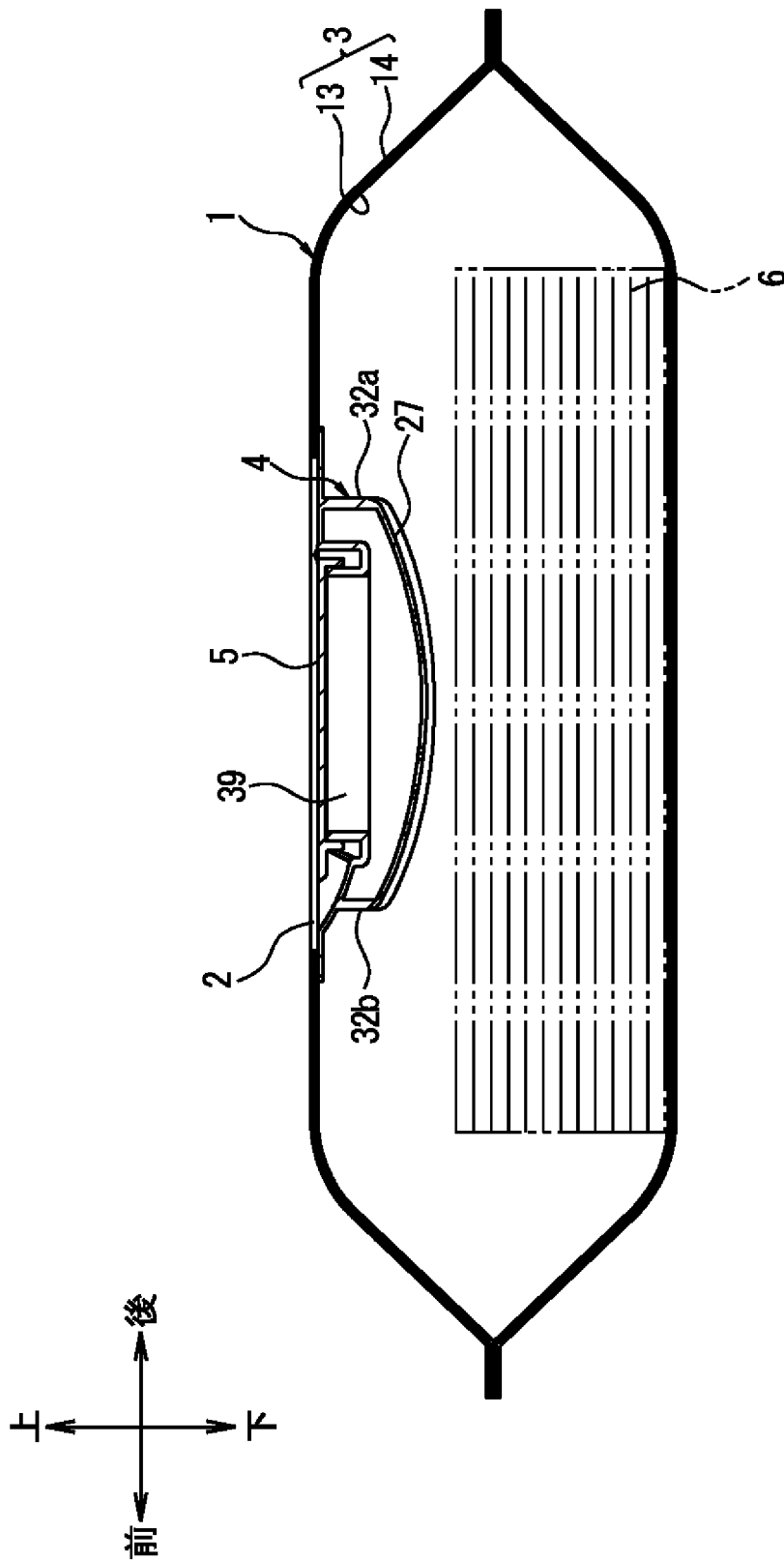
請求の範囲

- [請求項1] 所定間隔ごとに分離部が形成されたウェットティッシュ連続体を収納可能であって、前記分離部で前記ウェットティッシュ連続体と分離されたウェットティッシュを外方向へ引き出すための開口部が形成された収納容器と、
- 前記収納容器の前記開口部に取り付けられていて、前記ウェットティッシュ連続体が通過する際に抵抗を付与するための取出孔が形成された取出孔形成部と、前記取出孔を通過した前記ウェットティッシュ連続体の先端を収納可能な収納空間とを有する取出孔形成部材と、
- 前記収納空間から外方から閉塞及び開放自在な蓋体とが設けられたウェットティッシュ包装体において、
- 前記取出孔形成部材の前記収納空間と前記収納容器内の空間との間を前記取出孔以外の領域において連通させる連通部、が設けられていることを特徴とするウェットティッシュ包装体。
- [請求項2] 前記連通部が、前記収納空間の底部の周縁領域に形成されている請求項1記載のウェットティッシュ包装体。
- [請求項3] 前記取出孔形成部が前記収納容器空間内側に向かって凸に湾曲した湾曲した板状に形成されていて、その凸状に膨らんだ領域により前記連通部が形成されている請求項2記載のウェットティッシュ包装体。
- [請求項4] 前記取付孔形成部が、上記取付孔形成部材に片持ち支持されていて、その片持ち支持部を中心に前記取付孔形成部の自由端側が上記収納容器内の空間側に回転することにより、上記連通部が形成され或いは広げられる請求項1から3のいずれかに記載のウェットティッシュ包装体。
- [請求項5] 前記取出孔形成部材は、該取出孔形成部材の取付面を前記収納容器の内面側に向かい合わせて前記収納容器に取り付けられている請求項1記載のウェットティッシュ包装体。

[図1]

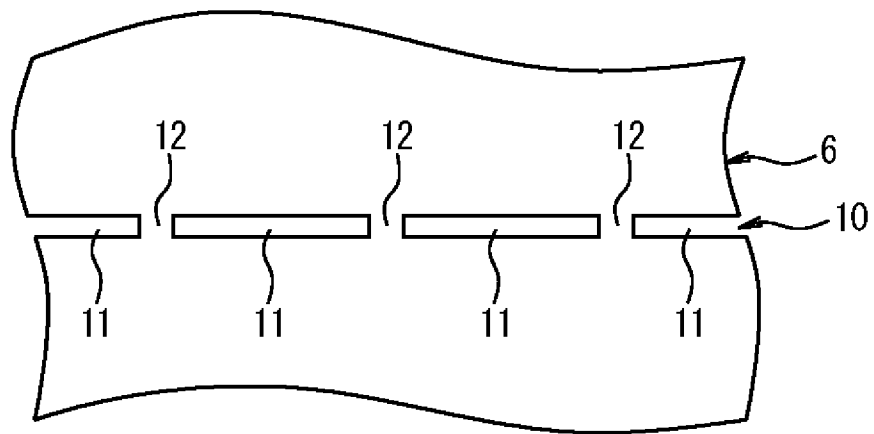


[図2]

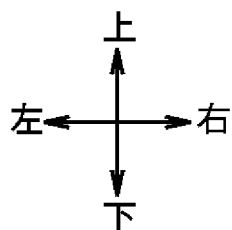
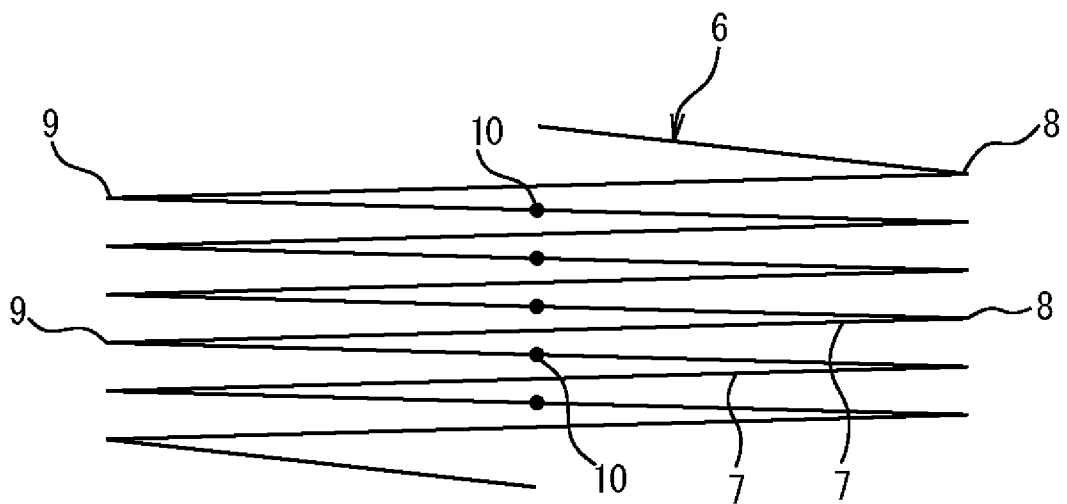


[図3]

(a)

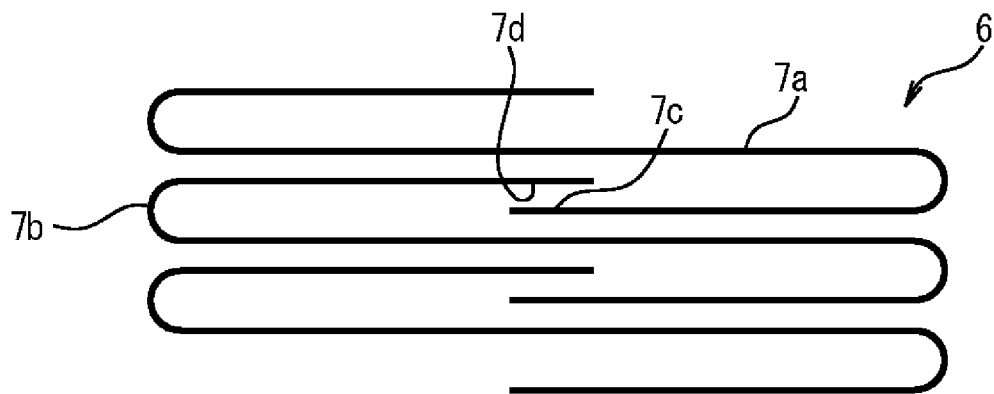


(b)

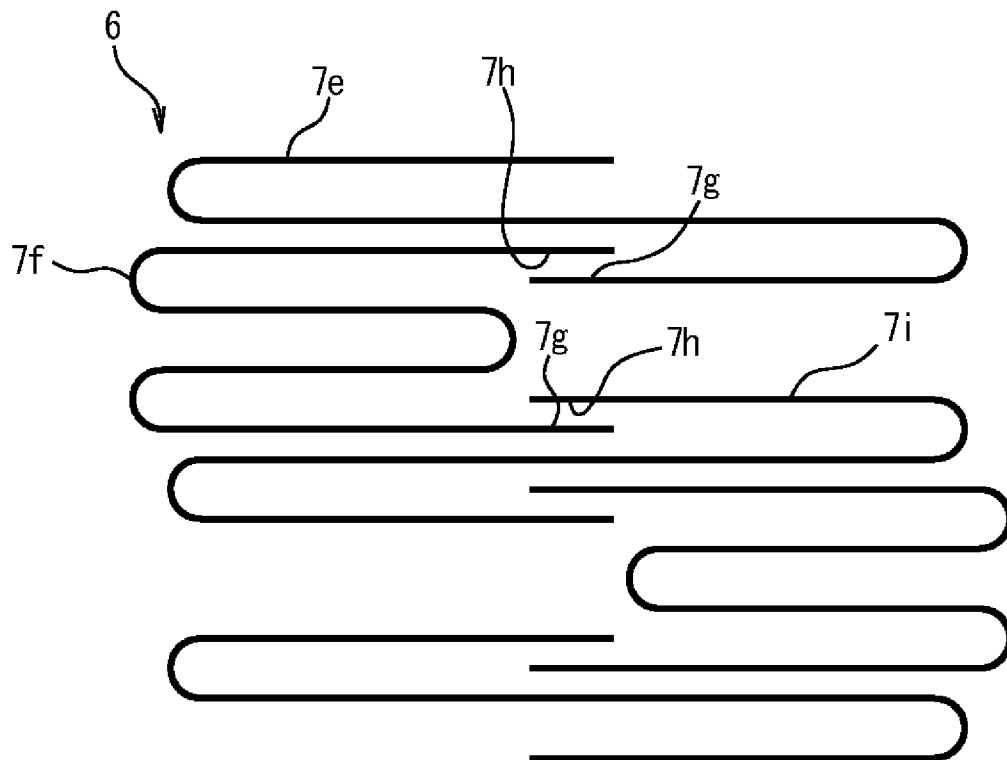


[図4]

(a)

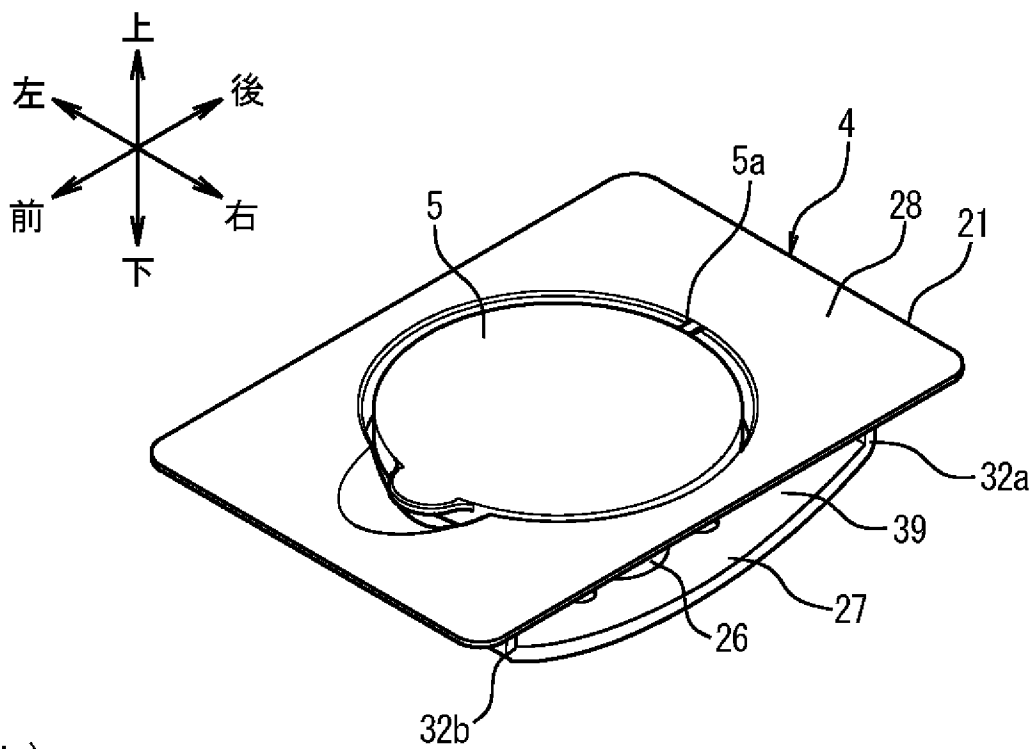


(b)

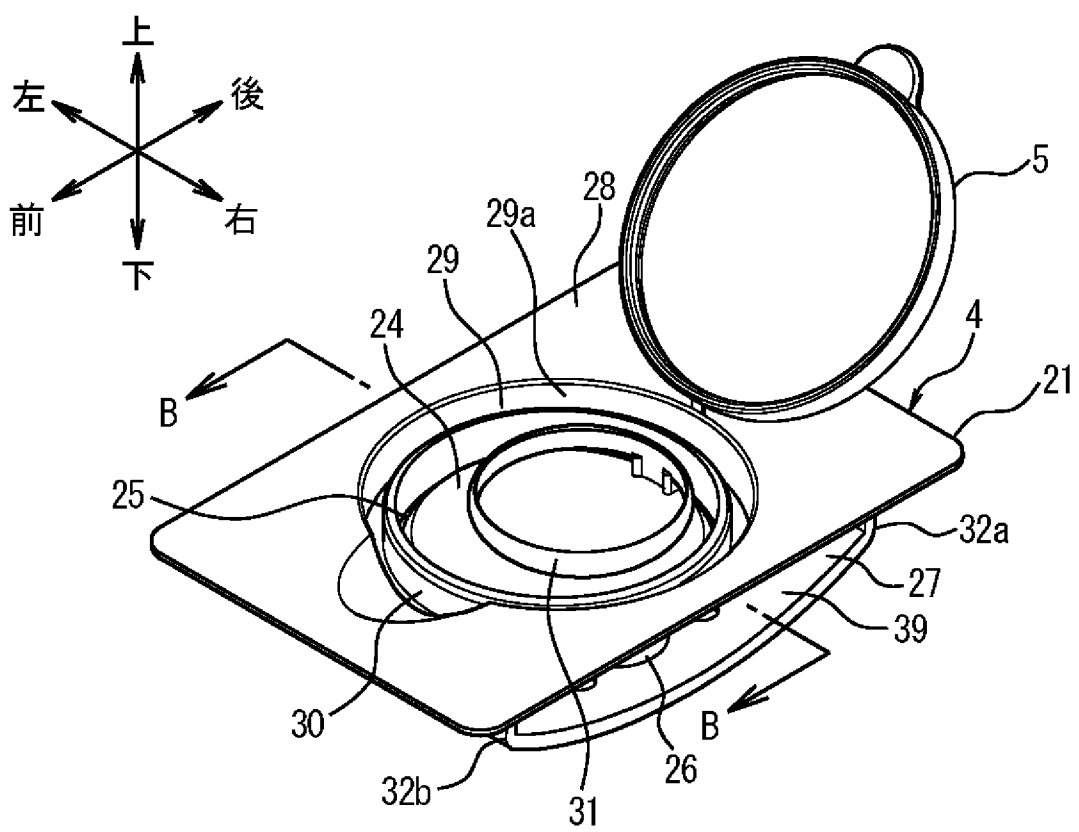


[図5]

(a)

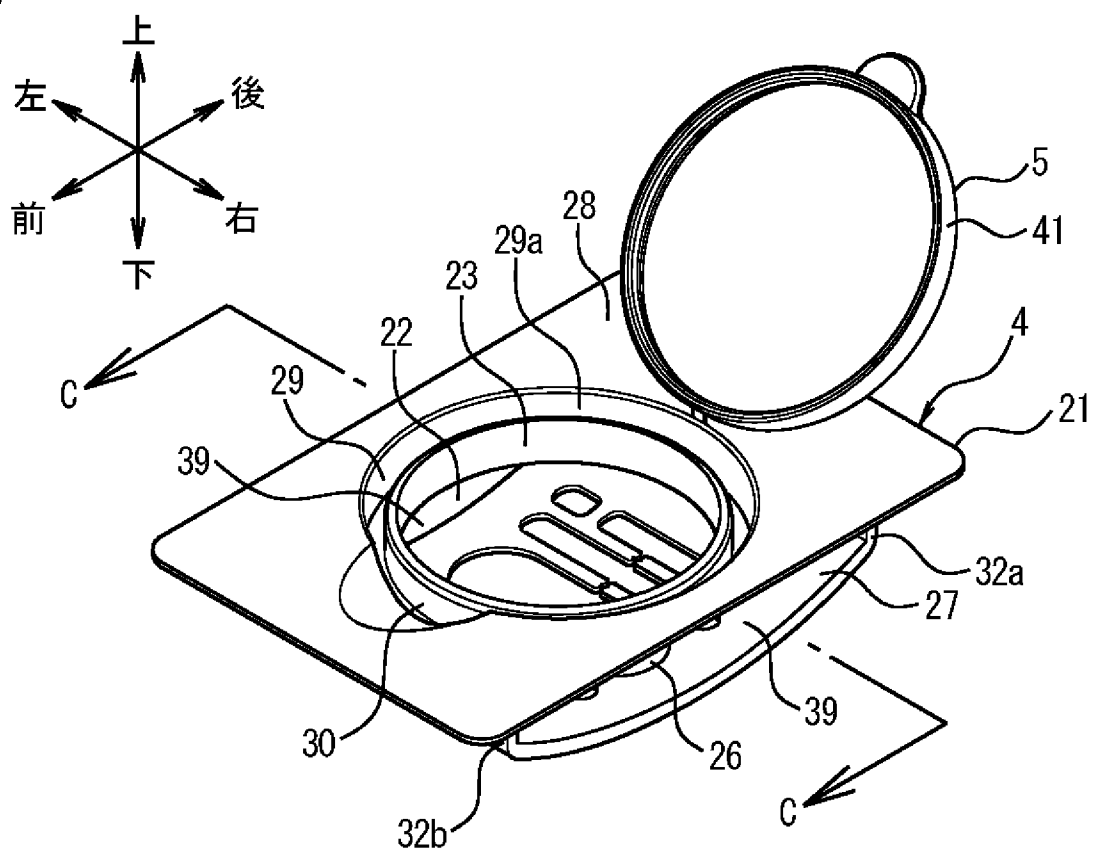


(b)

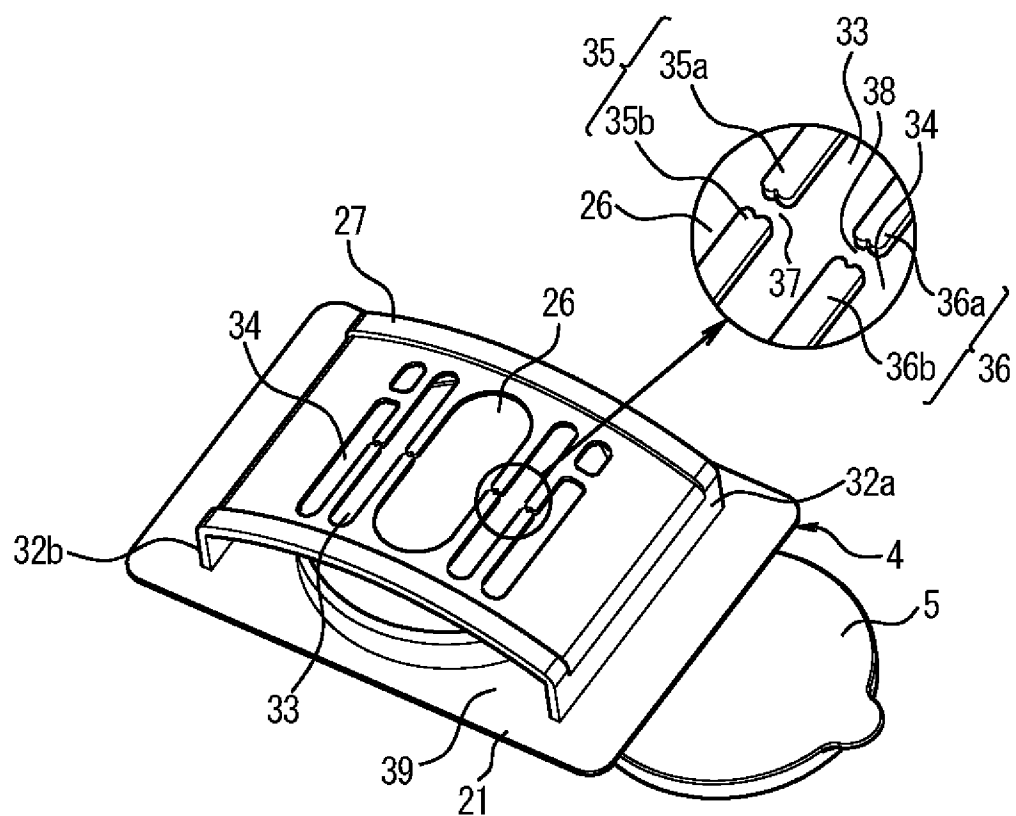


[図6]

(a)

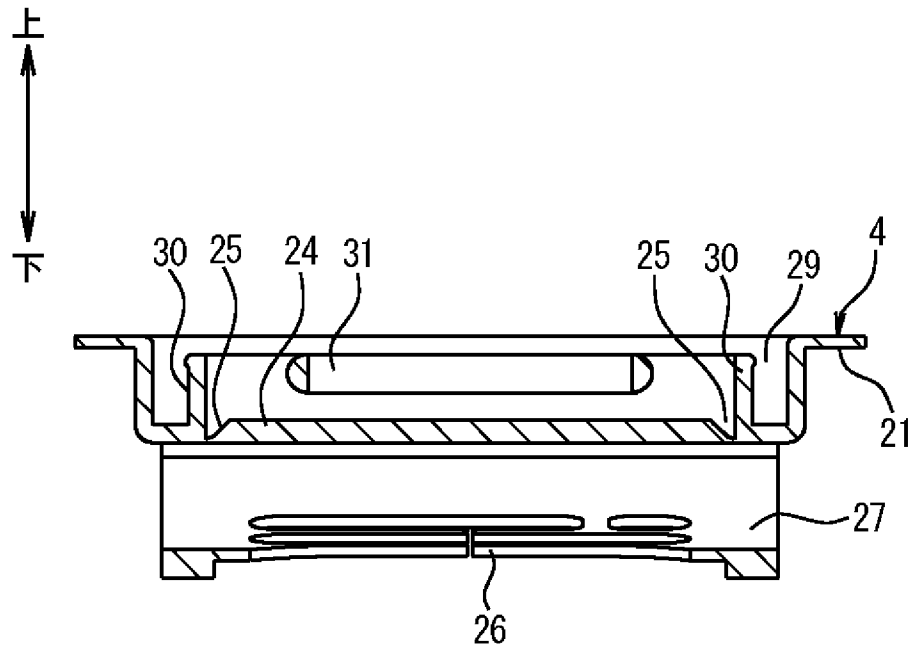


(b)

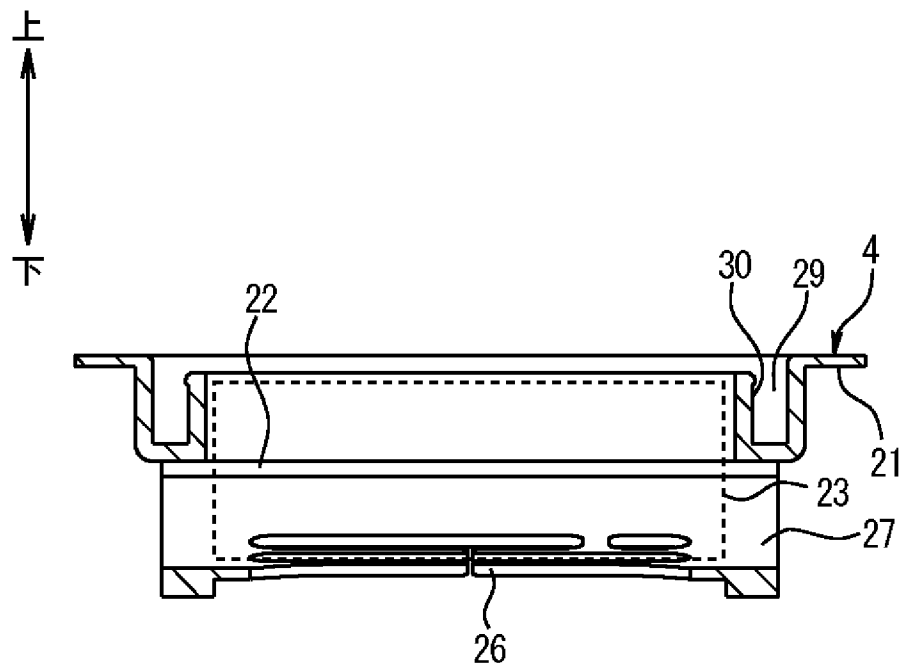


[図7]

(a)

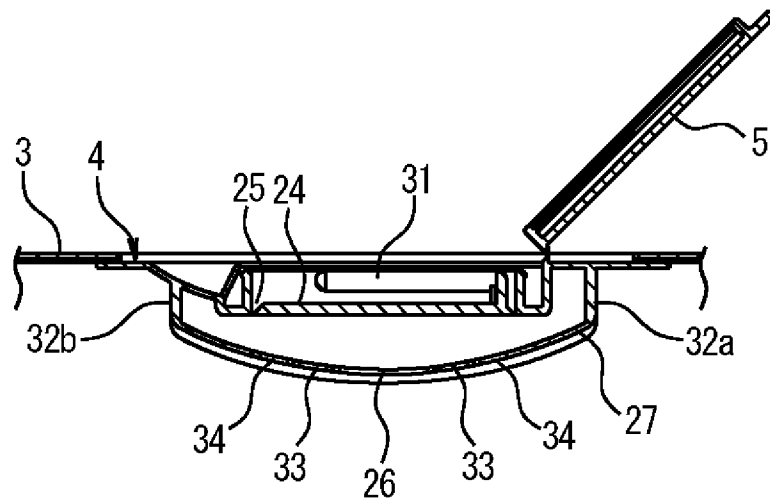


(b)

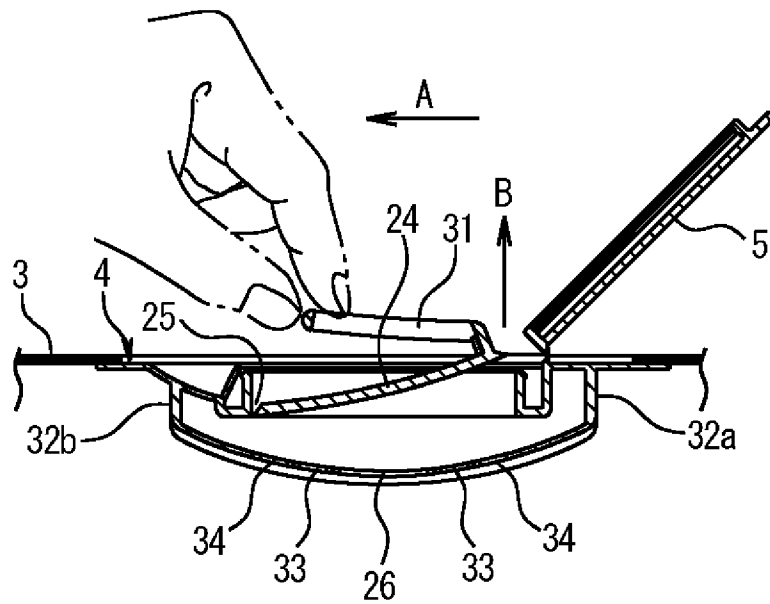


[図8]

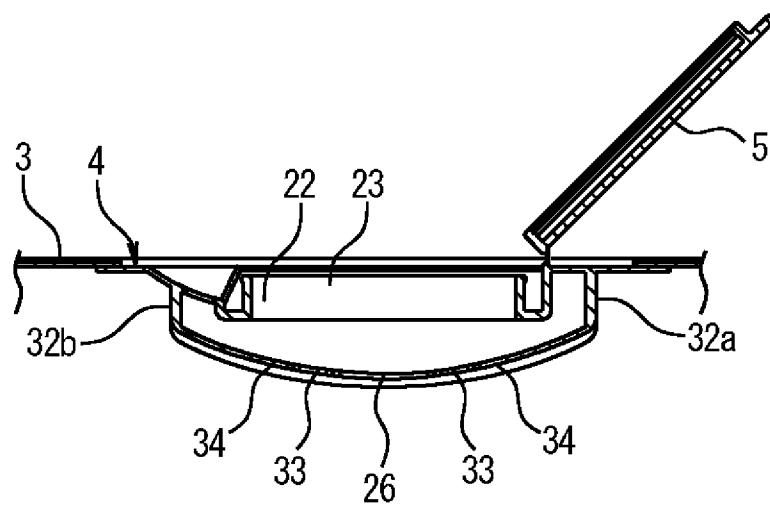
(a)



(b)

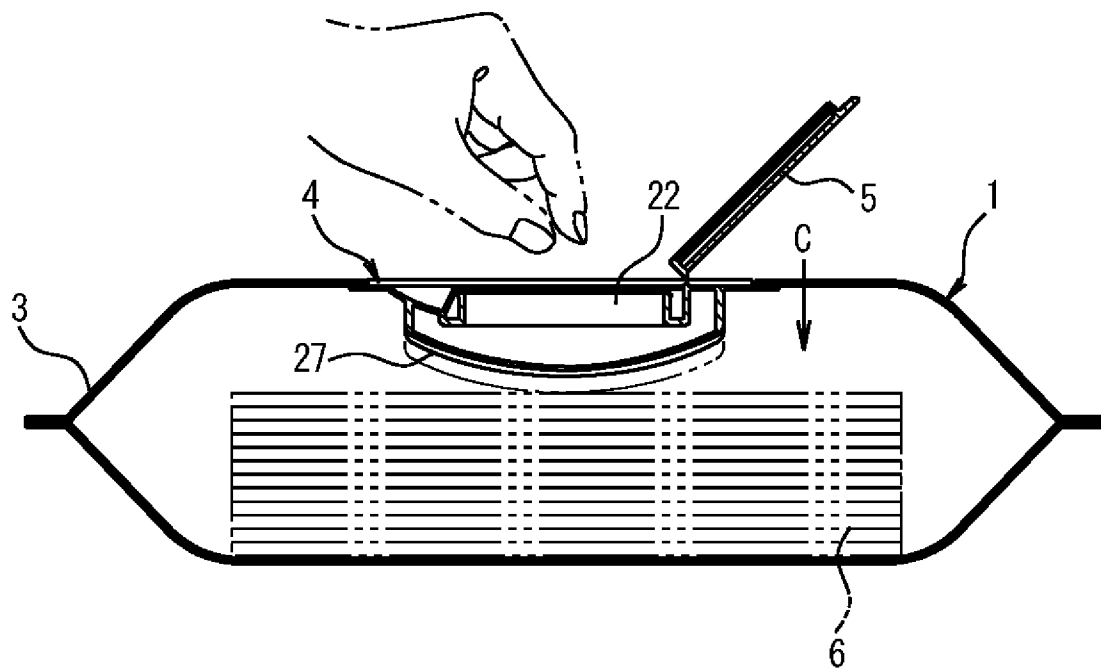


(c)

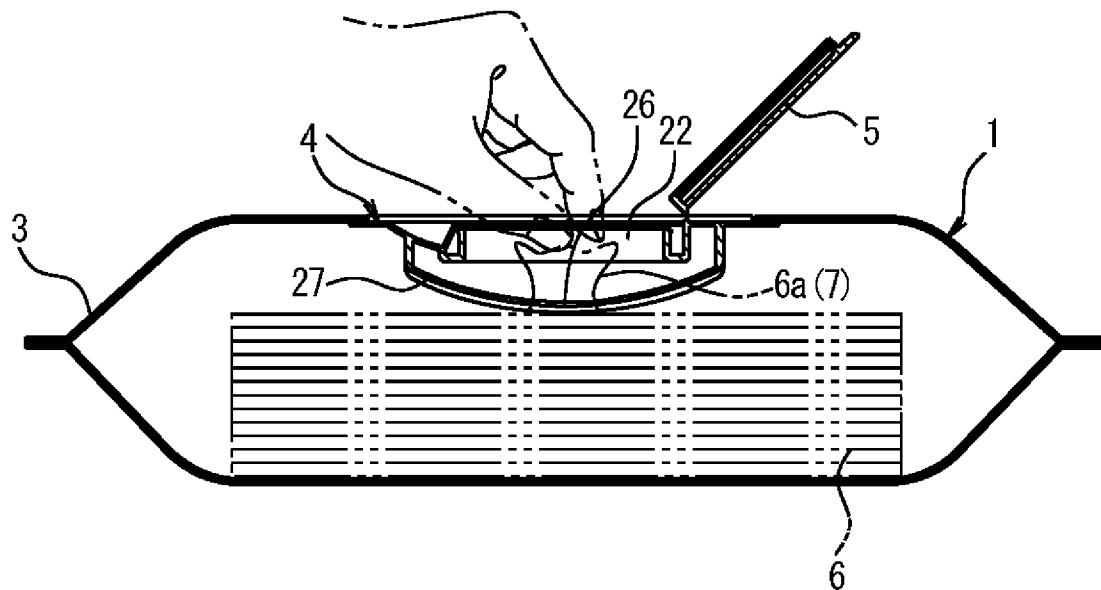


[図9]

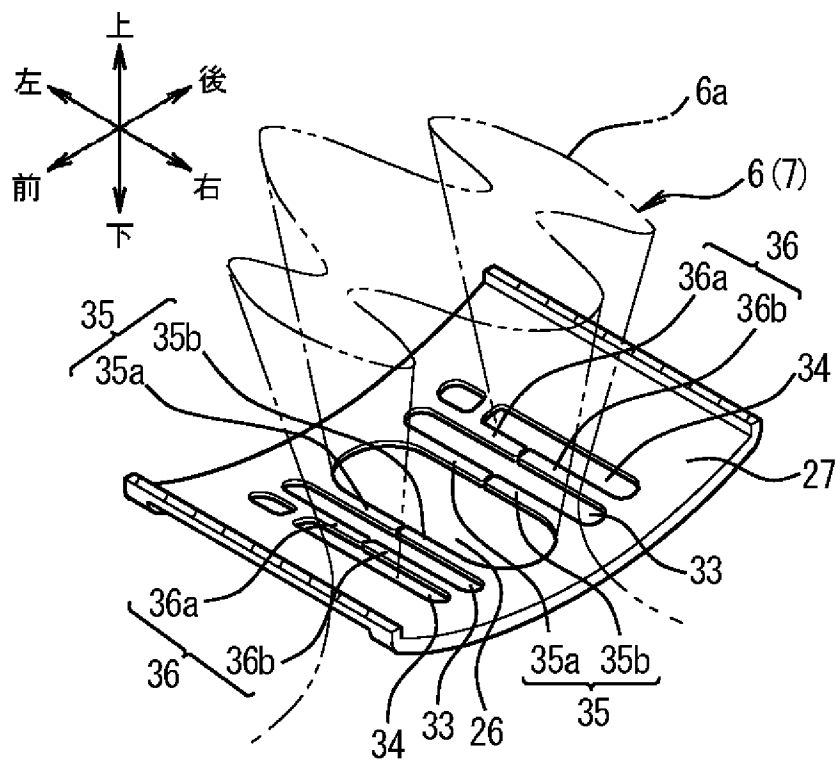
(a)



(b)

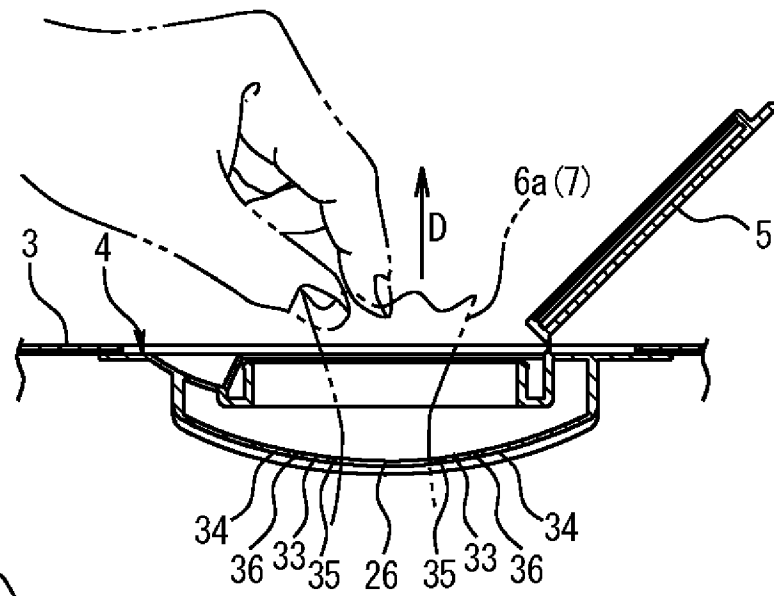


[図10]

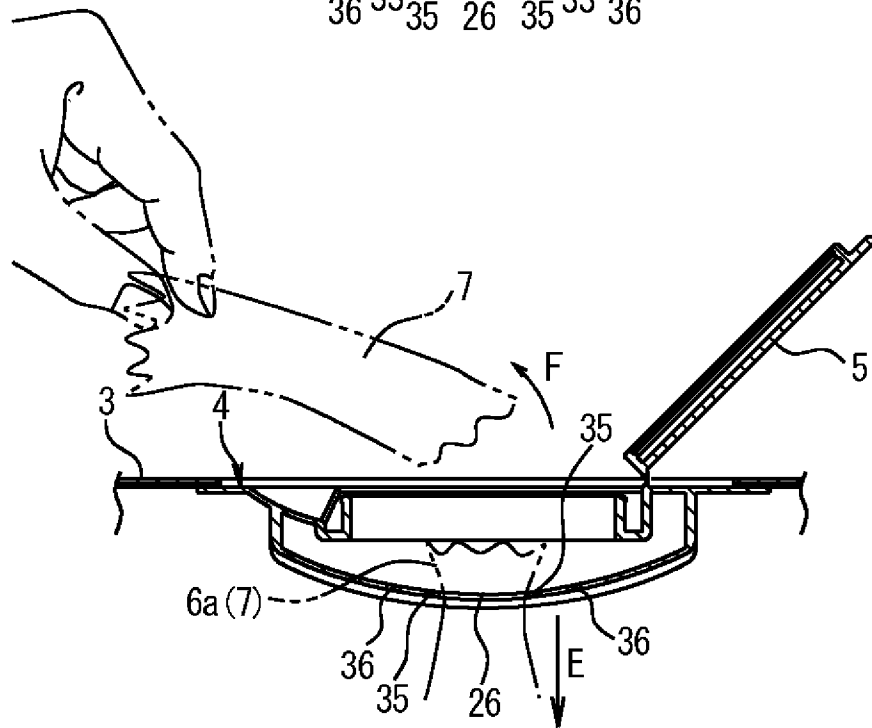


[図11]

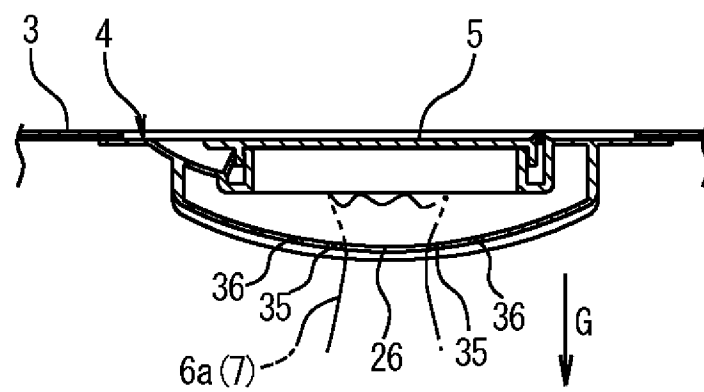
(a)



(b)

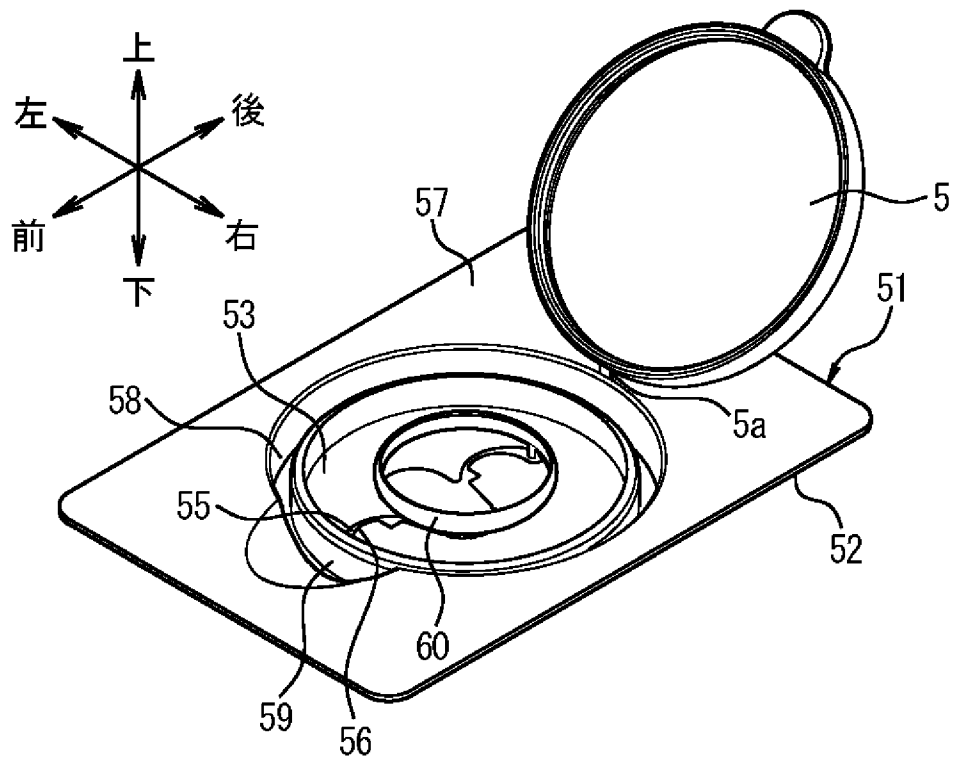


(c)

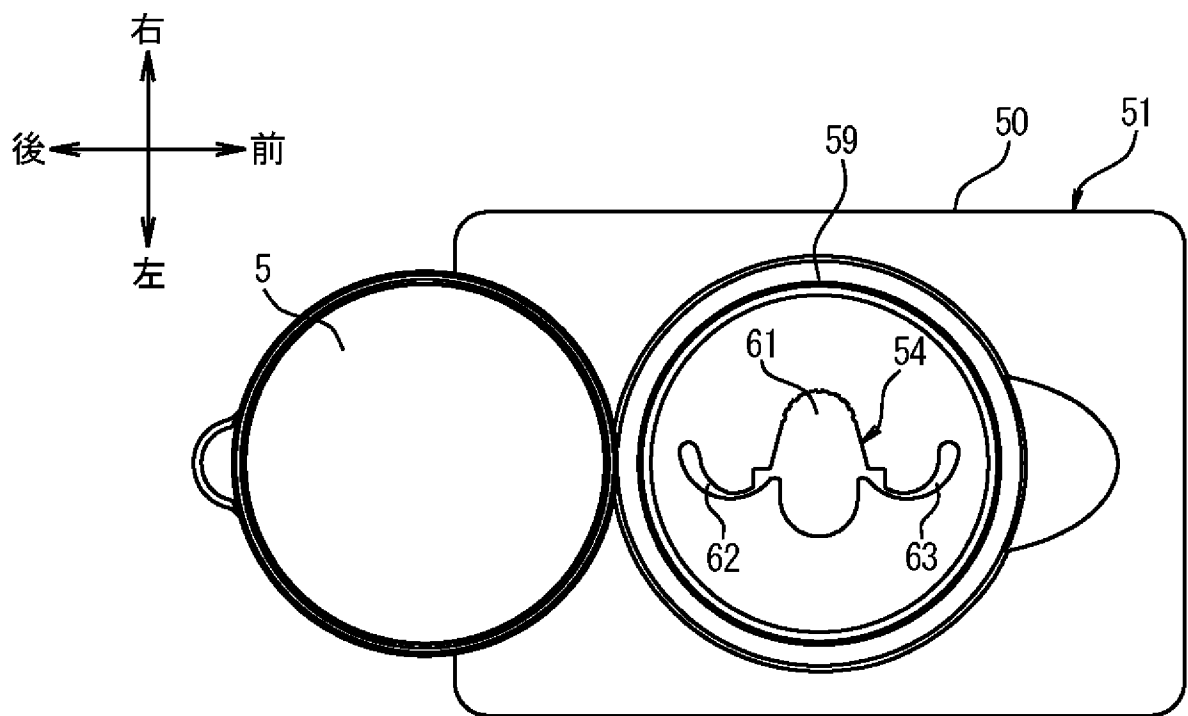


[図12]

(a)

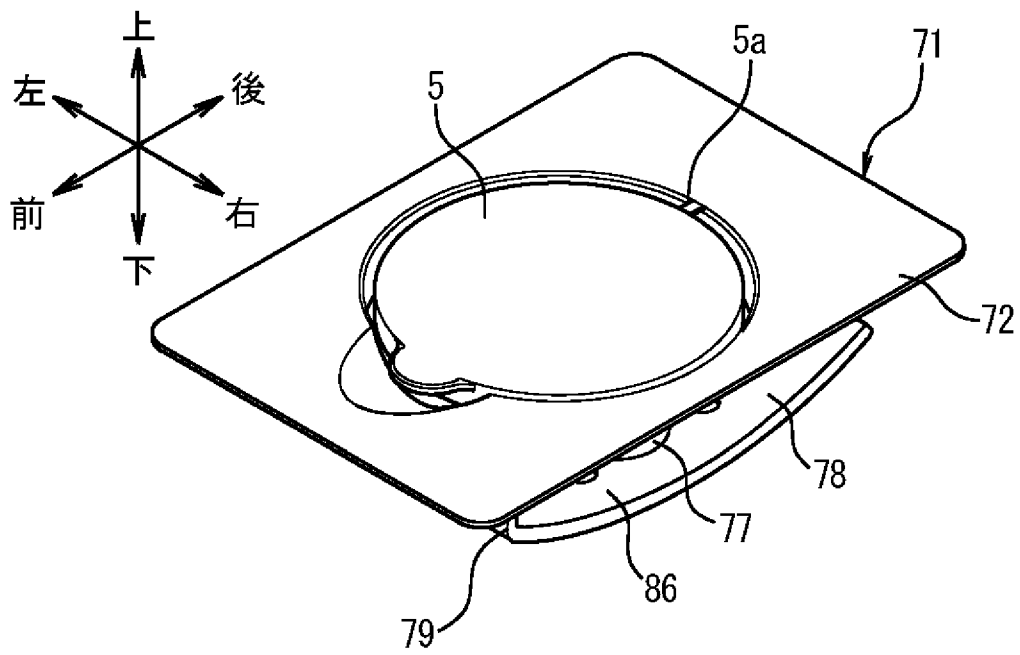


(b)

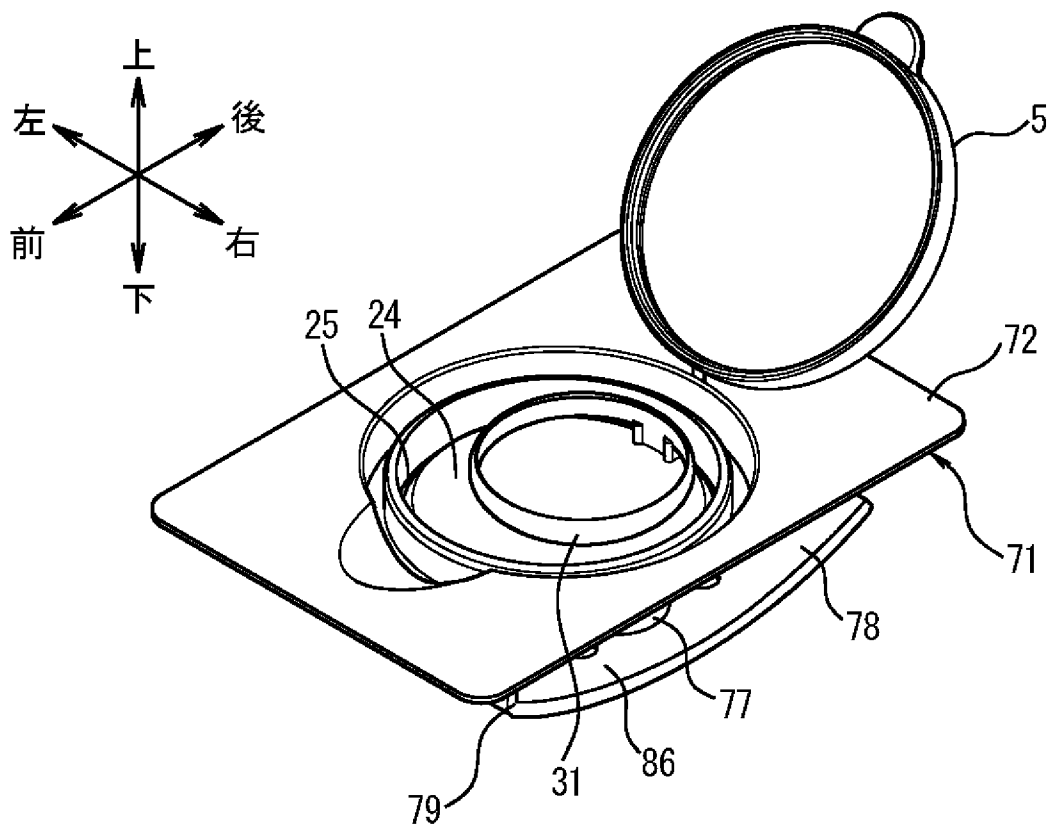


[図13]

(a)

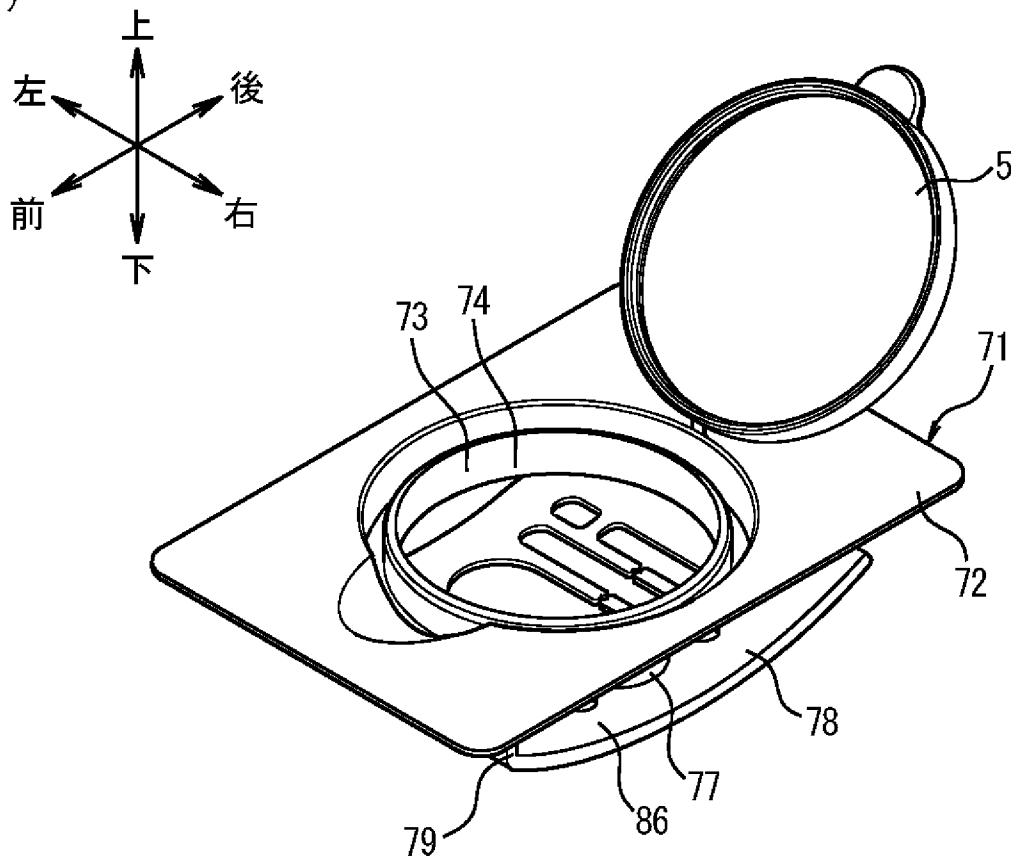


(b)

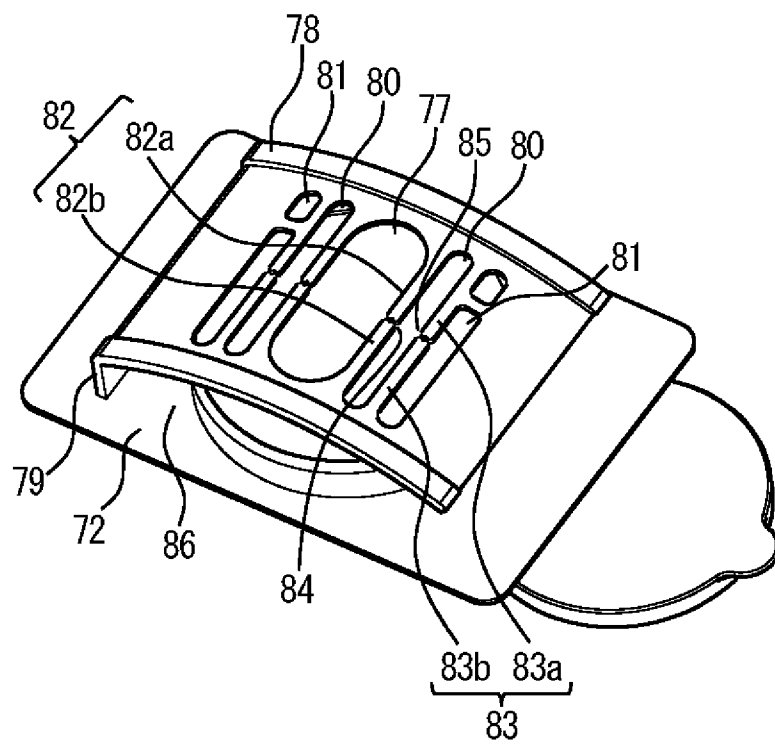


[図14]

(a)

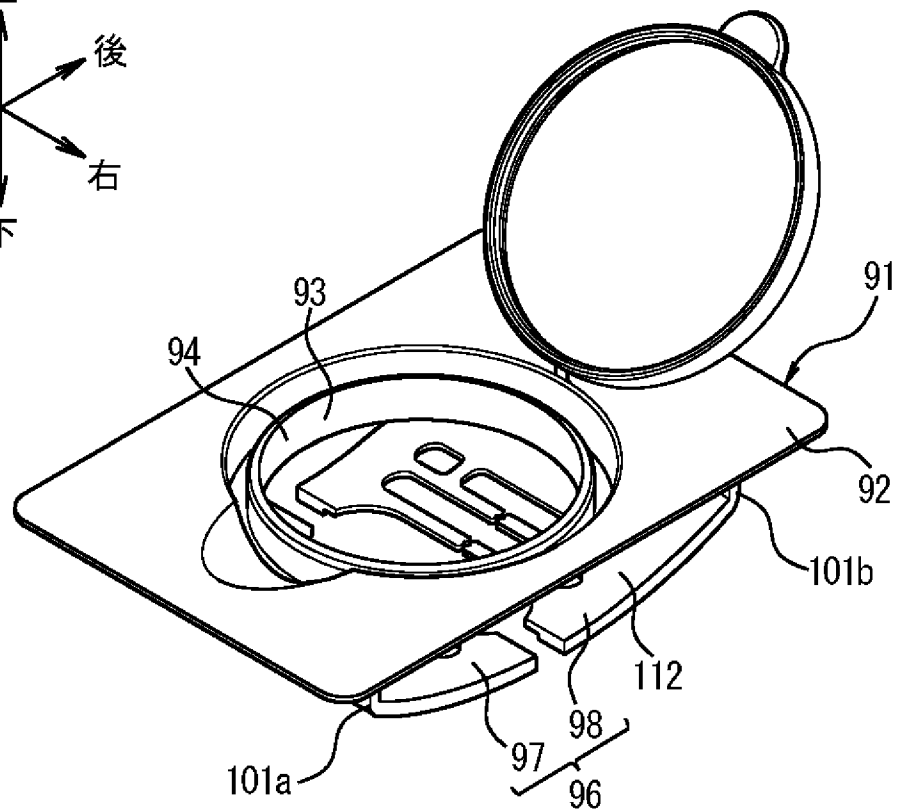
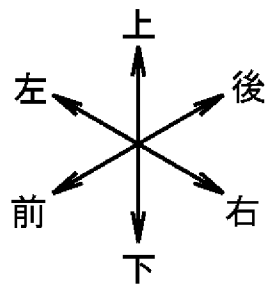


(b)

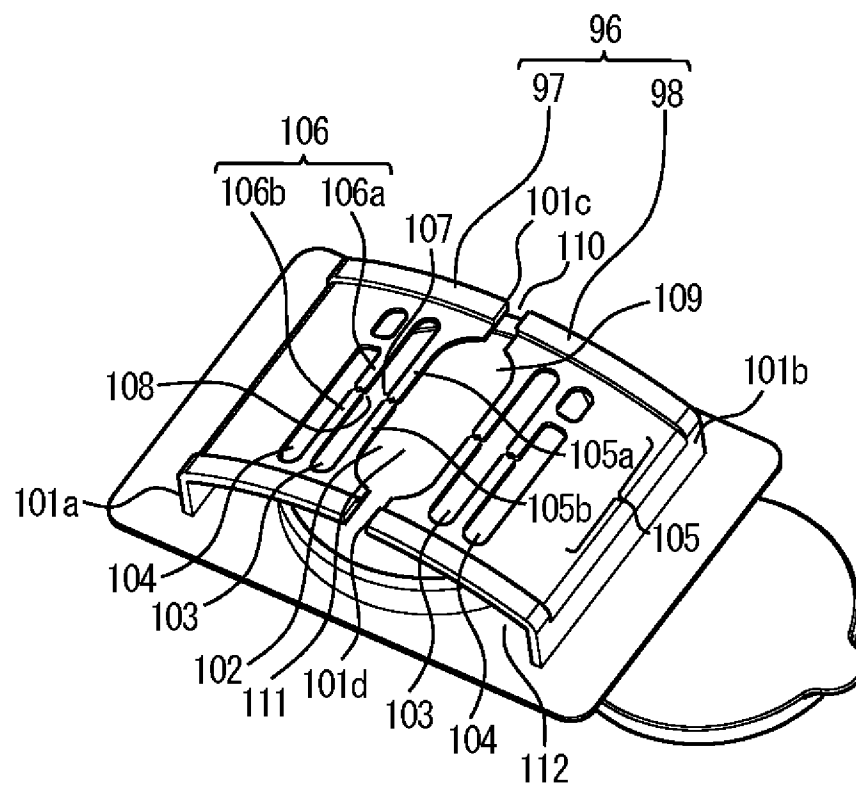


[図16]

(a)

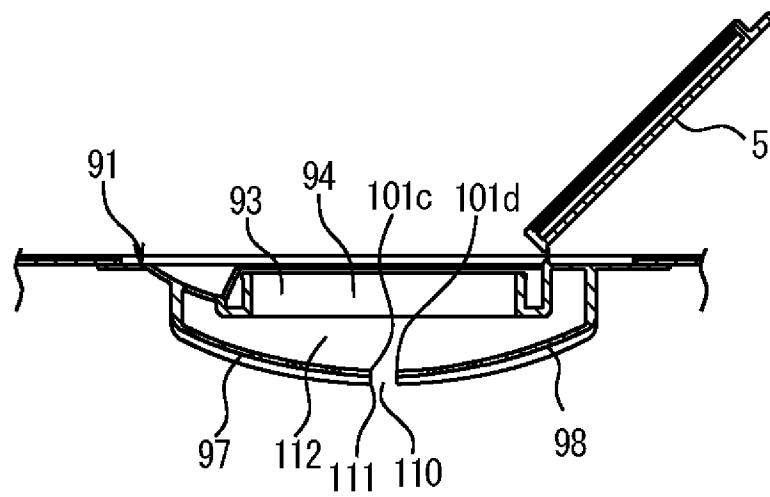


(b)

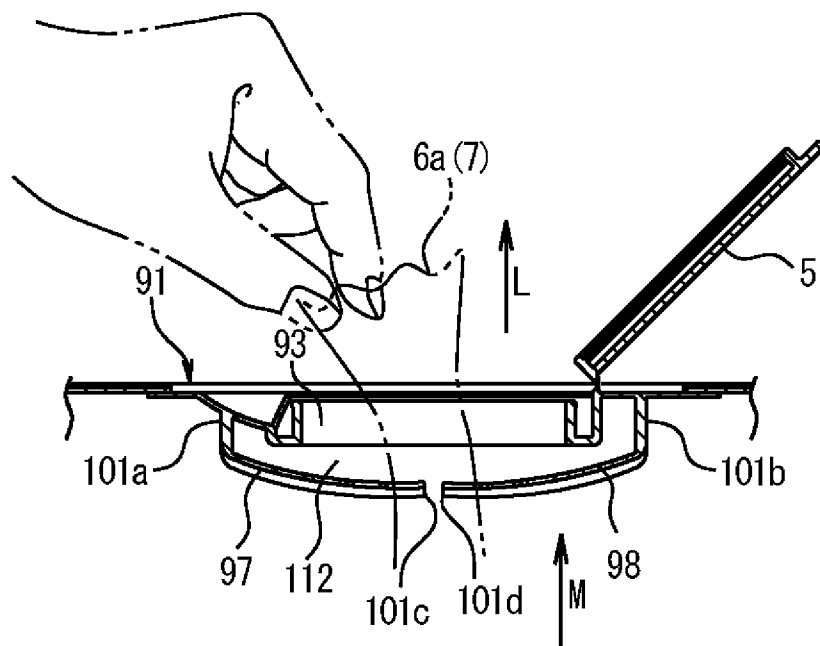


[図17]

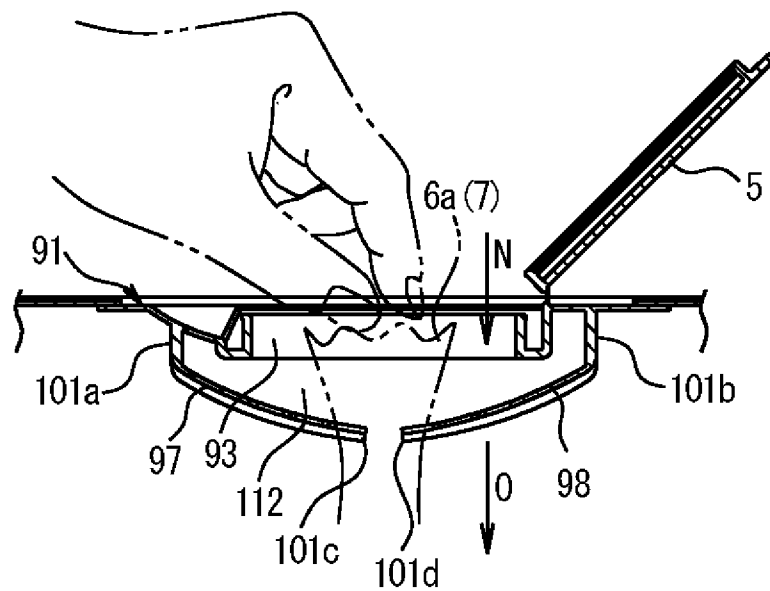
(a)



(b)



(c)



INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2013/001115

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER

B65D83/08 (2006.01) i, A47K7/00 (2006.01) i

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)

B65D83/08, A47K7/00

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

Jitsuyo Shinan Koho 1922-1996 Jitsuyo Shinan Toroku Koho 1996-2013

Kokai Jitsuyo Shinan Koho 1971-2013 Toroku Jitsuyo Shinan Koho 1994-2013

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
X A	JP 2008-44655 A (Nippon Paper Crexia Co., Ltd.), 28 February 2008 (28.02.2008), paragraphs [0009] to [0010], [0014]; fig. 1 to 7 (Family: none)	1-3, 5 4
A	JP 2003-40361 A (Daio Paper Corp.), 13 February 2003 (13.02.2003), fig. 3, 7 to 10 (Family: none)	1-5
A	JP 10-507106 A (Nice-Pak Products, Inc.), 14 July 1998 (14.07.1998), fig. 6, 9, 17 to 18 & US 5542568 A & EP 777435 A	1-5

☒ Further documents are listed in the continuation of Box C.☐ See patent family annex.

* Special categories of cited documents:

"A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance

"E" earlier application or patent but published on or after the international filing date

"L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)

"O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means

"P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed

"T" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention

"X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone

"Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art

"&" document member of the same patent family

Date of the actual completion of the international search
23 May, 2013 (23.05.13)Date of mailing of the international search report
04 June, 2013 (04.06.13)Name and mailing address of the ISA/
Japanese Patent Office

Authorized officer

Facsimile No.

Telephone No.

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2013/001115

C (Continuation). DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
A	JP 7-41061 A (JEX Co., Ltd.), 10 February 1995 (10.02.1995), fig. 4 to 7 (Family: none)	1-5
A	JP 1-226579 A (Kenji NAKAMURA), 11 September 1989 (11.09.1989), fig. 5, 8 to 10 & US 4848575 A & EP 331027 A1	1-5
A	JP 10-77076 A (Kenji NAKAMURA), 24 March 1998 (24.03.1998), fig. 2 (Family: none)	1-5

A. 発明の属する分野の分類 (国際特許分類 (I P C))

Int.Cl. B65D83/08 (2006.01)i, A47K7/00 (2006.01)i

B. 調査を行った分野

調査を行った最小限資料 (国際特許分類 (I P C))

Int.Cl. B65D83/08, A47K7/00

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

日本国実用新案公報	1 9 2 2 - 1 9 9 6 年
日本国公開実用新案公報	1 9 7 1 - 2 0 1 3 年
日本国実用新案登録公報	1 9 9 6 - 2 0 1 3 年
日本国登録実用新案公報	1 9 9 4 - 2 0 1 3 年

国際調査で使用した電子データベース (データベースの名称、調査に使用した用語)

C. 関連すると認められる文献

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求項の番号
X A	JP 2008-44655 A (日本製紙クレシア株式会社) 2008.02.28, 【0009】 - 【0010】, 【0014】, 【図1】 - 【図7】 (ファミリーなし)	1 - 3, 5 4
A	JP 2003-40361 A (大王製紙株式会社) 2003.02.13, 【図3】, 【図7】 - 【図10】 (ファミリーなし)	1 - 5
A	JP 10-507106 A (ナイスパック プロダクツ インコーポレイテッド) 1998.07.14, 【図6】, 【図9】, 【図17】 - 【図18】 & US	1 - 5

☒ C欄の続きにも文献が列挙されている。☐ パテントファミリーに関する別紙を参照。

* 引用文献のカテゴリー

「A」特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの
「E」国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの
「L」優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献 (理由を付す)
「O」口頭による開示、使用、展示等に言及する文献
「P」国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願

の日の後に公表された文献

「T」国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの
「X」特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの
「Y」特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの
「&」同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日

2 3 . 0 5 . 2 0 1 3

国際調査報告の発送日

0 4 . 0 6 . 2 0 1 3

国際調査機関の名称及びあて先

日本国特許庁 (I S A / J P)
郵便番号 1 0 0 - 8 9 1 5
東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官 (権限のある職員)

種子島 貴裕

3 N

3 9 3 9

電話番号 0 3 - 3 5 8 1 - 1 1 0 1 内線 3 3 6 1

C (続き) . 関連すると認められる文献		
引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求項の番号
	5542568 A & EP 777435 A	
A	JP 7-41061 A (ジェクス株式会社) 1995. 02. 10, 【図4】－【図7】 (ファミリーなし)	1－5
A	JP 1-226579 A (中村 憲司) 1989. 09. 11, 第5図, 第8－10図 & US 4848575 A & EP 331027 A1	1－5
A	JP 10-77076 A (中村 憲司) 1998. 03. 24, 【図2】 (ファミリーなし)	1－5